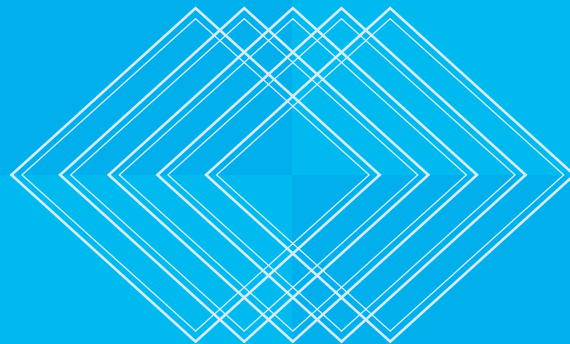


第11回 東北大学全学教育FD

— 報告書 —



平成29年9月

東北大学学務審議会
高度教養教育・学生支援機構



東北大学

第 11 回東北大学全学教育 FD 報告書発行にあたって

東北大学高度教養教育・学生支援機構副機構長

学務審議会副委員長

関 根 勉

第 11 回東北大学全学教育 FD は、“学事暦の柔軟化：クォーター制の試行にあたって”と題して開催いたしました。本学では折しも平成 29 年 4 月よりクォーター制を導入することとしておりましたので、その試行に向けて実際のシステムを確認するとともに、情報交換を行うことにより全体的な位置づけや課題点の把握およびその克服のための工夫等について知る機会となり、良いタイミングで開催することができたと思います。

東北大学のクォーター制については、静谷 啓樹 教授（学務審議会教務委員会委員長）より、その背景と目的、準備の経緯が紹介されました。それとともに、科目の実施パターン（週 2 クォーター科目、週 1 クォーター科目、セメスター科目）や運用の仕方、試行期間としての取り組みなどの説明があり、本学教員への協力要請がありました。

また、石井 光夫 教授（入試センター副センター長）には、“諸外国の学事暦と留学”というタイトルの基に、活発化している留学事情とその支援に鑑み、世界における主な大学の学事暦と特徴、留学のしやすさなどについて講演をしていただきました。

さらに、湯上 浩雄 教授（工学研究科副研究科長）より、本学工学部における教育改革について教育データの解析に関連づけてご報告をいただいたほか、いち早くクォーター制を導入している機械系の取り組みについても紹介していただきました。

最後に、吉田 香奈 准教授（広島大学教育本部）には、平成 28 年度からすでにクォーター制を導入している広島大学の実施状況についての紹介に加え、教育方法として広まりつつあるアクティブ・ラーニング導入の試みについてもふれていただきました。クォーター制の導入により教員は授業計画を変更する必要性に迫られるのですが、それに対応した授業改善などへの取り組みが広島大学教員のアンケート結果に現れているとのことが印象に残りました。受講生の学びへの真摯な姿勢と新システムにより既定された条件のはざままで、より良いインターフェースを構築しようとして努力する教員の姿がそこに垣間見られたように思いました。

冒頭にもふれたとおり、本学でも平成 29 年度よりクォーター制が試行されます。現在、全学教育科目（約 2100 科目）のうち、約 51%がクォーター科目として位置付けられ、スタートラインに出揃いました。今後は、教職員と学生の相互の理解を深め、変革に向けた継続的努力・対応および評価とフィードバックによる改善を行いながら本システムを機能させ、学生の学びに灯をともすことができればと期待してやみません。

第 11 回東北大学全学教育 F D

日 時：平成 29 年 3 月 7 日（火） 13：30～16：30

会 場：川内北キャンパス マルチメディア棟 M206

参加者：平成 29 年度全学教育担当教員（非常勤講師を含む）

テーマ：“学事暦の柔軟化：クォーター制の試行にあたって”

スケジュール：

司会 教育情報・評価改善委員会委員 笹野泰之

1. 開会挨拶 13：30

学務審議会委員長 花輪公雄

2. オリエンテーション 13：40

教育情報・評価改善委員会委員長 牧野 周

3. 世界の大学の学事暦と留学 13：50

入試センター副センター長 石井光夫

司会 教育情報・評価改善委員会委員長 牧野 周

4. 工学部の教育改革と機械系のクォーター制 14：20

工学研究科副研究科長 湯上浩雄

5. 東北大学のクォーター制について 14：50

学務審議会教務委員長 静谷啓樹

～～ 休 憩 15：20 ～～

6. 広島大学のクォーター制の実施とその現状 15：35

広島大学教育本部准教授 吉田香奈

7. 質疑応答 16：20

8. 閉会挨拶 16：30

高度教養教育・学生支援機構副機構長 関根 勉

主催：学務審議会教育情報・評価改善委員会

高度教養教育・学生支援機構

第 11 回東北大学全学教育 F D 実施要項

1. 目的

- (1) 東北大学全学教育の基本理念を理解・共有することで、教員が教育活動を行う上での指針を明確にすること
- (2) 優れた教育実践を共有し、教員が修学を指導・支援する上で有益な情報を得ること
- (3) 全学教育の充実・改善課題と方向を明確にし、教員の教育改善に生かすこと

2. 日時・場所

平成 29 年 3 月 7 日 (火) 13:30~16:30 マルチメディア教育研究棟 M206

3. テーマ “学事暦の柔軟化：クォーター制の試行にあたって”

4. スケジュール

司会 教育情報・評価改善委員会委員 笹野泰之

13 : 30 開会挨拶 学務審議会委員長 花輪公雄

13:40 オリエンテーション 教育情報・評価改善委員会委員長 牧野 周

13:50 世界の大学の学事暦と留学 入試センター副センター長 石井光夫

司会 教育情報・評価改善委員会委員長 牧野 周

14:20 工学部の教育改革と機械系のクォーター制 工学研究科副研究科長 湯上浩雄

14:50 東北大学のクォーター制について 学務審議会教務委員長 静谷啓樹

15 : 20 休憩

15:35 広島大学のクォーター制の実施とその現状 広島大学教育本部准教授 吉田香奈

16：20 全体を通しての質疑応答

16：30 閉会挨拶 高度教養教育・学生支援機構副機構長 関根 勉

第11回東北大学全学教育FD参加者数一覧

部局	参加者数(名)
委員・全体会講師等	8
文学研究科・文学部	8
教育学研究科・教育学部	3
理学研究科・理学部	14
医学系研究科・医学部	10
歯学研究科・歯学部	1
薬学研究科・薬学部	2
工学研究科・工学部	5
農学研究科・農学部	4
国際文化研究科	14
情報科学研究科	4
生命科学研究科	3
環境科学研究科	2
教育情報学研究部	2
金属材料研究所	3
流体科学研究所	2
電気通信研究所	1
多元物質科学研究所	1
災害科学国際研究所	1
附属図書館	2
東北アジア研究センター	1
高度教養教育・学生支援機構	32
サイクロトン・RIセンター	1
教養教育院	1
国際連携推進機構	1
非常勤講師	16
他大学等オブザーバー	9
計	151



司 会
教育情報・評価改善委員会委員 笹野 泰之



開 会 挨 拶
学務審議会委員長 花輪 公雄



オリエンテーション
教育情報・評価改善委員会委員長 牧野 周



「諸外国の学事暦と留学」
入試センター副センター長 石井 光夫



「工学部の教育改革と機械系のクォーター制」
工学研究科副研究科長 湯上 浩雄



「東北大学のクォーター制について」
学務審議会教務委員長 静谷 啓樹



「広島大学のクォーター制の実施とその現状」
広島大学教育本部准教授 吉田 香奈



閉 会 挨 拶
高度教養教育・学生支援機構副機構長 関根 勉



研修風景 1



研修風景 2

第11回 東北大学全学教育FD

主催：学務審議会

2017年3月7日(火), 13:30~16:30

マルチメディア教育研究棟, M206



開会挨拶

学務審議会 委員長
花輪 公雄

1

開催の目的・テーマ・プログラム

< 目 的 >

- (1) 東北大学全学教育の基本理念を理解・共有することで、教員が教育活動を行う上での指針を明確にすること
- (2) 優れた教育実践を共有し、教員が修学を指導・支援する上で有益な情報を得ること
- (3) 全学教育の充実・改善課題と方向を明確にし、教員の教育改善に生かすこと

< 今回のテーマ >

「学事暦の柔軟化：クォーター制の試行にあたって」

< プログラム >

13:30 開会挨拶	学務審議会委員長	花輪公雄
13:40 オリエンテーション	教育情報・評価改善委員会委員長	牧野 周
13:50 「諸外国の学事暦と留学」	高教機構 入試センター副センター長	石井光夫
14:20 「工学部の教育改革と機械系のクォーター制」	工学研究科副研究科長	湯上浩雄
14:50 「東北大学のクォーター制について」	学務審議会教務委員長	静谷啓樹
(15:20 休憩)		
15:35 「広島大学のクォーター制の実施とその現状」	広島大学教育本部准教授	吉田香奈
16:20 全体を通しての質疑応答		
16:30 閉会挨拶	高教機構 副機構長	関根 勉

2

東北大学全学教育FDの報告書・動画

開催年の秋ごろをめぐりに
報告書を発行(ウェブでも掲載)。
また、動画(平成26年度から)を配信。

<アクセスの仕方>

本学トップページ

- => 教育・学生支援
- => 全学教育
- => 教員への情報
- => FD関連
- => 報告書



ただし、平成23年
(第5回)は震災のため開催していない。



3

全学教育のURL：全学教育に関する情報発信サイト



東北大学 全学教育
Tohoku University General Education

サイト内検索

検索

[HOME](#)
[学生への情報](#)
[教員への情報](#)
[学務情報](#)



<http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku.html>

What's New

2017/2/3 学生への情報 [授業案内](#) 更新

2017/1/25 教員への情報 [教員控室休業日利用可能日カレンダー \(PDF\)](#) 更新

2017/1/24 学生への情報 [補講期間\(2月6日~2月10日\)の時間割](#) 掲載

2017/1/16 教員への情報 [授業収録配信システム試験運用](#)

TOPICS

授業を調べる
 —東北大学授業カタログ(試行)—

|| 新着情報一覧

<http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku.html>

4

動画によるオリエンテーション

東北大学全学教育担当者のための
オリエンテーション:
歴史・理念・仕組み・課題



東北大学高等教育開発推進センター大学教育支援センター長
東北大学学務審議会 教育情報・評価改善委員会委員長

羽田 貴史



講師
羽田 貴史 教授

採録時
高等教育開発推進センター
大学教育支援センター長
学務審議会／教育情報・
評価改善委員会 委員長

現在
高度教養教育・学生支援機構
／大学教育支援センター
センター長

約30分間の動画です。

＜アクセスの仕方＞

本学トップページ

⇒ 教育・学生支援

⇒ 全学教育

⇒ 教員への情報

⇒ FD関連

⇒ オリエンテーション（動画）



5

全学教育ガイド：全学教育への理解を求めて

全学教育への理解を求めて
2013年度より発行
新生と全教員に配布



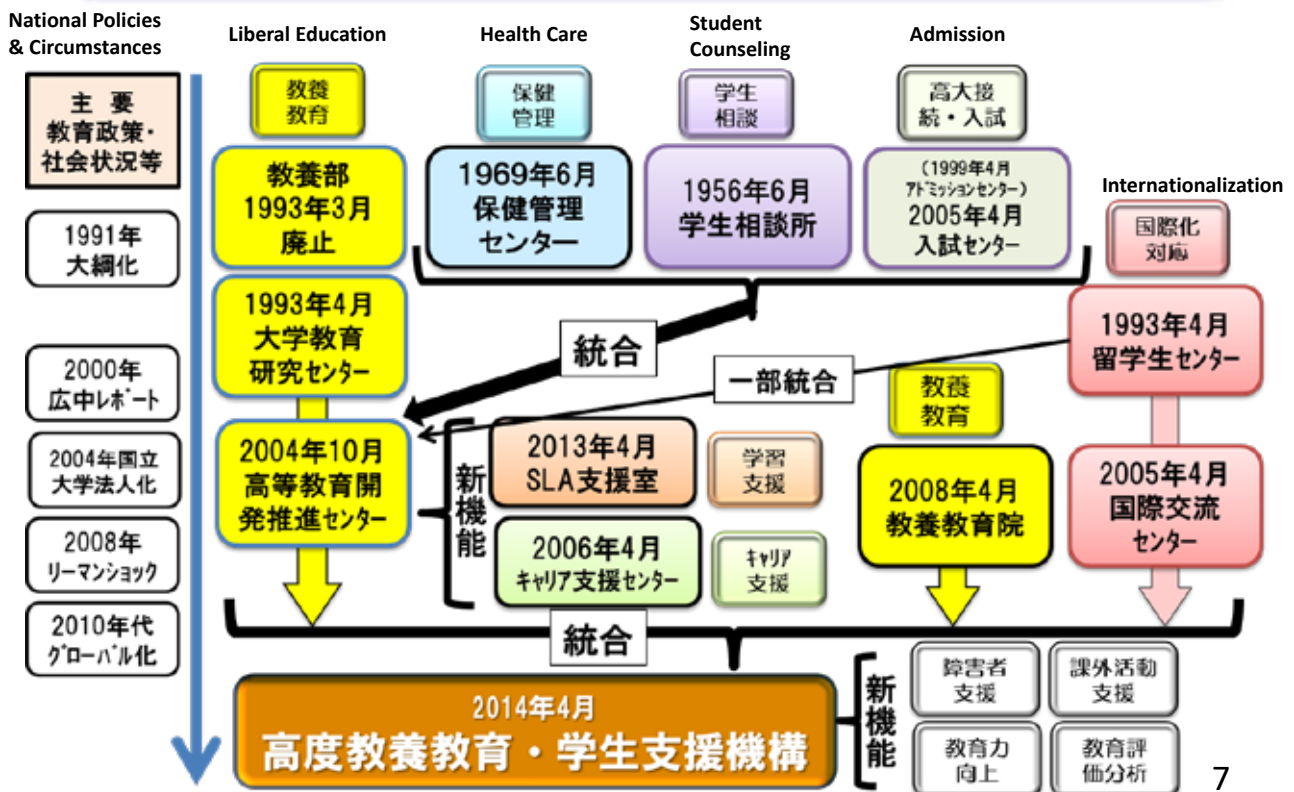
【巻頭言】

2013年度：全学教育の位置づけ～それは教養を身につける教育～
2014年度：「高度教養教育・学生支援機構」が設置されました！
2015年度：豊かな実りを得るためには、確かな土壌の準備を！
2016年度：最先端の専門的知識とそれらを活用する力を得るために
2017年度：全学教育は、今年度よりクォーター制になります！

6

全学教育を担う組織の整備：高度教養教育・学生支援機構の設置

Institute for Excellence in Higher Education (IEHE)



7

The great teacher inspires ! : 学生の心に火をつけてください !

The mediocre teacher tells.
The good teacher explains.
The superior teacher demonstrates.
The great teacher inspires.
(William Arthur Ward, 1921-1994)

凡庸な教師はただしゃべる。
よい教師は説明する。
すぐれた教師は自らやってみせる。
そして、偉大な教師は心に火をつける。
(訳 西澤 潤一 (本学第17代総長))

8

1. オリエンテーション

教育情報・評価改善委員会委員長
牧野 周

第11回東北大学全学教育FD

「オリエンテーション」

教育情報・評価改善委員会
牧 野 周

1

第11回東北大学全学教育FD

「学事暦の柔軟化」 クォーター制の試行にあたって

2

＜学事暦見直し(クォーター制)の意義＞

(1)学習効果の向上

・短期集中型の授業、CAP制と合わせて授業時間外学習の充実

(2)グローバル化への対応

・世界の大学のアカデミックカレンダーに対応が可能
→留学・海外研修の促進、海外学生の受入促進、春期・夏期休暇の有効利用

(3)教育指導の充実と研究の両立

＜クォーター制に合わせて柔軟な学事＞

早稲田大学の実施例

・祝日月曜日の一部開校→代休は休業日対応 (GWは全休、一部の水曜日等に休業日)

・主要学事は月日固定 → 入学式(4.1と9.21)、卒業式(3.25と9.20)

東大の実施例

・8:30授業開始→20:30授業終了(6時限制)→5、6限は資格、社会人、補講、非常勤授業を充てる。

・105分授業(+15分の討論時間)休講が2、3回可能?

3

「学事暦の柔軟化」 クォーター制の試行にあたって

・諸外国の学事暦と留学

石井光夫教授(入試センター副センター長)

・工学部の教育改革と機械系のクォーター制

湯上浩雄教授 (工学研究科副研究科長)

・東北大学のクォーター制

静谷啓樹教授 (学務審議会教務委員長)

・広島大学のクォーター制の実施とその現状

吉田香奈准教授 (広大教育本部)

4

全学教育を担当される先生方へのお願い

「クラス指定の同一名称科目」の成績評価 は可能限り推奨される相対評価で

5

「クラス指定の同一名称科目」の成績評価

「クラス指定の同一名称科目」とは

異なる授業担当者で行われる同一名称科目で、同じ学習到達目標と内容を持つ科目として、学生に選択の余地なく開講クラスが指定されているものである。

「履修クラス指定授業科目」

数学概論B、数学概論C、解析学概要、解析学A、解析学B、解析学C、解析学D、線形代数学概要、線形代数学A、線形代数学B、数理統計学、物理学A、物理学B、物理学C、物理学D、自然科学総合実験、化学A、化学B、化学C、英語A1、英語A2、英語B1、英語B2、スポーツA、スポーツB

クラス間で異なる成績評価がないよう、各科目委員会において、評価の方法や基準について共通理解を図り、成績分布の確認をする(基礎ゼミと20人以下クラスを除く)。

＜参考例＞

外国語科目委員会英語部会:A=30%程度(AAはその上位3分の1程度)、BとC=ある程度/バランス
評価改善委員会:AA=10-20%、A=20-30%、B=20-40%、C=10-20%、D=20%以下の例案
工学部機械・知能系:AA:A:B:C=1:2:4:3の提案

＜東大駒場の例＞

優(A評価)3割ルール完全実施:A=30±10%(AAはその上位3分の1程度)、範囲外の成績評価は理由書提出が義務付けられている(少人数授業、実験、実習などは除外) → 学部の専門科目でも実施(実験、演習、卒論は除く)

6

全学教育科目の成績評価ガイドライン

(1) 成績評価ガイドライン設定の趣旨

成績評価は、学生の学習成果を測定し当該科目の習得状況を把握して単位修得を認定するものであり、大学教育のレベルを客観的に保証する役割を持つ。

また、成績評価は、学生にとっては自己の学習活動を振り返り、教員にとっては自己の教育活動と効果を把握する形成的な役割も持ち、客観的で公平な成績評価を実施することは教育の質保証にとって必須の条件である。

全学教育は大学教育の入り口に位置し、学生が大学での学習習慣を身につける重要な機会であり、学部によっては全学教育科目の成績を活用して研究室選定の選抜資料に利用することもあり、信頼性のある評価が求められている。全学教育における成績評価の考え方を明確にし、教員・学生間で共有することが必要である。

特に、同一科目のクラス指定授業(例:「基礎化学B」)と履修科目一覧(学則)において担当教員間で成績評価の結果が異なるとは、成績評価への不信をもたらし、その解決は学生側からも教員側からも急務の要務となっている。

そこで、①到達度評価としての成績評価の明確化、②科目群ごとの成績評価の考え方の共有化、③クラス指定科目における成績分布の設定、の3項目から成る本ガイドラインを作成することによって、厳格で公平な成績評価をさらに推進するうえでの一助とする。

(2) 成績評価の基本的考え方

①到達度評価としての成績評価の実施

各授業科目における成績評価は、担当教員がシラバスで提示した学習到達目標を基準に、その目標に対してどれだけ達成したかの程度にもとづく「到達度評価」として実施する。

②科目ごとの成績評価のあり方の共通理解

教員が学習到達目標をどのレベルに設定するかは、成績評価を行う際の重要なポイントであり、かつ、その目標設定の仕方によって成績評価の分布の形状等が大きく異なってしまう。個々の授業実施と成績評価の責任は教員個人に委ねるが、質では大学としての組織的なものであり、各科目における成績評価のあり方は、科目ごとに全学教育の理念をふまえて共有化していくことが望ましい。

そのため、科目委員会は当該科目の特性に即して、担当教員による適切な成績評価が実施されるように検討し、担当教員間で共有するように促進することとする。

科目委員会は、学生の属する学部や入学前の学習歴及び科目の特性を視野に入れて、同一名称の科目の学習到達目標、到達すべき水準を明確にし、担当教員間で共有できるようにする。

7

③「クラス指定の同一名称科目」の成績評価

「クラス指定の同一名称科目」「基礎ゼミ」と受講生20名以下の少人数教育を除くは、同一の学習到達目標と内容を持つ科目が、学生の適正規模を確保するために、複数の担当者による複数クラス開講として行われ、学生が選択の余地なく受講クラスが指定されているものである。

*「履修クラス指定授業科目」(平成24年度)

数学概論B、数学概論C、解析学概要、解析学A、解析学B、解析学C、
解析学D、線形代数学概要、線形代数学A、線形代数学B、数理統計学、

物理学A、物理学B、物理学C、物理学D、自然科学総合実験、

化学A、化学B、化学C、英語A1、英語A2、英語B1、英語B2、

スポーツA、スポーツB

こうした科目の性格に鑑み、成績評価の結果がクラス間で著しく異なることがないよう、科目委員会において、クラス間の成績分布を担当教員間で協議し、評価の方法や水準についての共通理解を図り、成績分布の調整を行うなどの方策を取るようにする。

*「参考となる取り組み」

全学教育外国語委員会英語部会では、AA=評価Aの中で特に優秀な3分の1程度、A=クラス全体の上位

30%程度、BおよびC=ある程度バランスを保つことD=評価基準と人数について特に配慮すること、と基準

比率を定め実施している。また工学部機械・知能系では、教務委員会が「AA:A:B:C=1:2:4:3」で採

点することを提案している。評価改善委員会の議論では、AA=1～2割程度、A=2～3割程度、B=2から

4割程度、C=1～2割程度、D=2割以下、という意見もある。

※注意事項

「クラス指定の同一名称科目」においては、他クラスへの履修変更は、原則認めないようお願いします。

8

第11回東北大学全学教育FD

「学事暦の柔軟化」 クォーター制の試行にあたって

9

2. 「諸外国の学事暦と留学」

入試センター副センター長

石井 光夫

第11回東北大学全学教育FD

諸外国の学事暦と留学

平成29年3月7日
高度教養教育・学生支援機構
石井光夫

1

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

内容

1. 諸外国の学事暦と留学

- ・学年始期・学期制・夏休み
- ・留学生受け入れ・割合国別ランキング
- ・留学先選択の理由

2. ギャップイヤー(ターム)

- ・イギリスと日本の比較

2

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

1. 諸外国の学事暦と留学

諸外国の学年始期:

- ・ UNESCOの調査によれば、有効回答を返した204カ国のうち、
- ・ 9月, 10月に学年が開始する国が約6割。
- ・ 4月を学年始期とする国は、2011年現在で我が国を含めて4カ国。

(文部科学省調べ)

3

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

入学月別国数

2011年度統計	国数	割合(未回答国を除く204カ国に対する割合)
1月入学	31	15.2%
2月入学	12	5.9%
3月入学	9	4.4%
4月入学	4	2.0%
5月入学	2	1.0%
6月入学	2	1.0%
7月入学	3	1.5%
8月入学	15	7.4%
9月入学	105	51.5%
10月入学	21	10.3%
未回答	14	-
総計	218	100.0%/204カ国

出典: UNESCO Data Center / Education
※大学教育のみに関する学年開始時期の統計はなく、初中教育段階の統計から作成。
※日本と同じ「4月学年開始, 9月学年終了」はインドとパキスタンの2カ国。
ペルーは4月学年開始だが、学年終了が12月。

4

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

主な国の学年始期・終期(1)

国名	学年期間	会計年度の始期
アメリカ	7月～5月	10月
イギリス	9月～8月	4月
フランス	9月～6月	1月
ドイツ	10月～9月	1月
イタリア	9月～6月	1月
デンマーク	8月～5月	1月
ロシア	9月～6月	1月
オーストラリア	1月～12月	7月
ニュージーランド	1月～12月	4月
カナダ	9月～5月	4月

5

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

主な国の学年始期・終期(2)

国名	学年期間	会計年度の始期
メキシコ	9月～6月	1月
ブラジル	3月～12月	1月
インド	4月～3月	4月
中国	9月～7月	1月
韓国	3月～2月	1月
タイ	5月～3月	...
インドネシア	7月～6月	...
ベトナム	9月～5月	...
台湾	8月～7月	1月

6

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

主な国の学年開始時期・学期制度・夏期休業開始時期(1)			
	学年開始月(注1)	学期	夏期休業開始月
アメリカ	9月	2学期(セメスター制)75% 3学期(クォーター制)10%(注3)	6月
イギリス	9~10月	3学期制が一般的 一部2学期制, 4学期制(バッキンガム大学)	6月下旬~ 7月上旬
フランス	9~10月	2学期制	6月
ドイツ	10月	2学期制	7月
欧州諸国 (36カ国・地域)(注2)	すべて秋に開始 (9月17国, 10月7国, 8-9月6国, 9-10月6国)	ほとんどが2学期制 (2または3学期制3国 3学期制2国)	ほとんどが 6月または 7月初旬

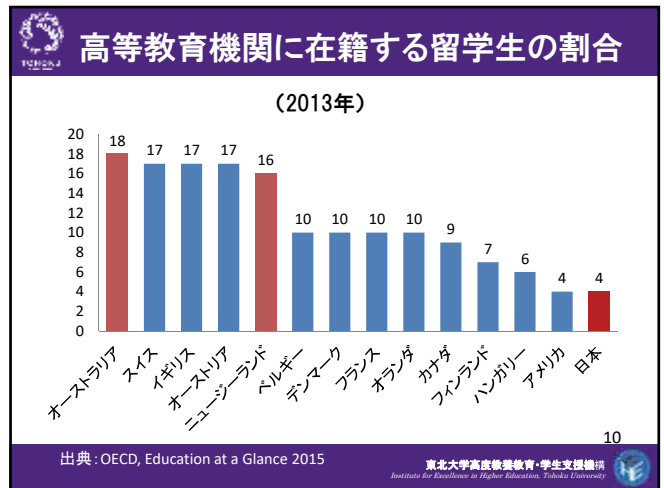
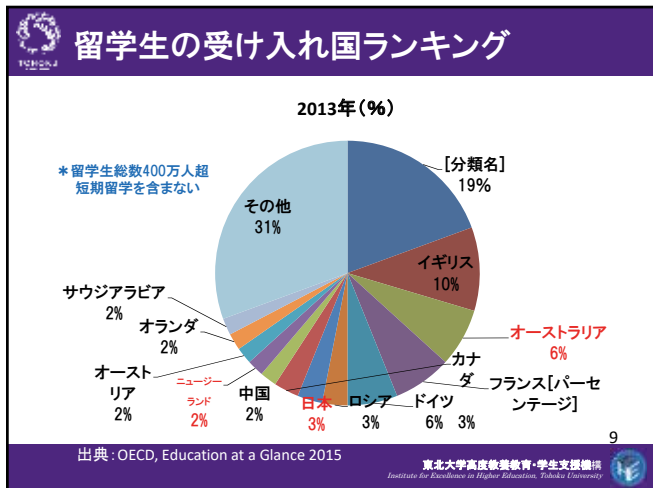
注1:典拠資料が異なり, 前表と一致しない。実際の開始月を示す。
注2:英仏独含む。ベルギー・3言語圏は個別に集計。注3:2000年調査。4年制大学。ほかに変則3学期制。
出典:Eurydice, The Organisation of the Academic Year in Europe 2014/15,『IDE現代の高等教育』2013年8-9月号, 文部科学省『諸外国の高等教育』2004年

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

主な国の学年開始時期・学期制度・夏期休業開始時期(2)			
	学年開始月(注)	学期	夏期休業開始月
オーストラリア	2月中旬~ 3月上旬	通常2学期制 (7月上旬に学期間休業)	12月
中国	9月	2学期制	7月
韓国	3月	2学期制	6月
台湾	9月	2学期制	6月末または 7月初
インドネシア	9月	2学期制	6月

注:典拠資料が異なり, 前表と一致しない。実際の開始月を示す。
出典:『IDE現代の高等教育』2013年8-9月号, 文部科学省『諸外国の高等教育』2004年, 文科省『諸外国の学校教育アジア・オセアニア・アフリカ編』1995年等

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University





TOHOKU UNIVERSITY

日本の留学受入・派遣上位国(2011年)

	日本への留学生受け入れ 上位5カ国	年度開始 月	日本からの留学生派遣上位 10カ国	年度開始 月
1	中国(87,533人)	9月	アメリカ(5,925人)	7月
2	韓国(17,640人)	3月	イギリス(2,599人)	9月
3	台湾(17,640人)	9月	カナダ(2,509人)	9月
4	ベトナム(4,033人)	9月	オーストラリア(2,269人)	1月
5	マレーシア(2,417人)	1月	中国(2,269人)	9月
6			韓国(1,891人)	3月
7			フランス(952人)	9月
8			ドイツ(923人)	10月
9			ニュージーランド(780人)	1月
10			タイ(511人)	5月

出典: 高谷亜由子「諸外国の入学時期を巡る状況」『IDE現代の高等教育』2012年6月号

11

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



留学先選択の要因(OECD)

- (1)授業言語**
 - ・世界で広く使われている言語(英語, 仏語, 独語, 露語, 西語)
 - ・「日本は注目すべき例外」
- (2)プログラムの質**
 - ・ランキング等の情報
- (3)授業料と物価**
 - ・EU内は大半の国が授業料無料。日韓米は徴収(国内学生と同等)
 - ・オーストラリア, ニュージーランドは例外(高額)
- (4)移民政策**
- (5)その他**
 - ・単位互換性, 学位認定, 出身国のアクセス制限・入学基準の厳しさ, 受入国との地理的・歴史的関係, 就業への展望など
 - *学年始期の問題は言及なし

出典: OECD, Education at a Glance 2015

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



2. ギャップイヤー(ターム)

第一次安倍政権(H20)や東京大学(H23)の秋入学検討によりギャップイヤー(ターム)への関心高まる。

調査研究

- ・ 文部科学省委託研究 日本総合研究所「社会奉仕活動の指導・実施方法に関する調査研究」平成13年9月(資料A)
- ・ 文部科学省先導的大学改革推進委託事業「英国におけるギャップイヤーなど、学生または入学予定者に対する長期的に渡る社会経験を可能とする取り組みに関する調査研究」(代表・秦由美子)平成20年5月中間報告書(資料B)平成21年3月最終報告書(資料C)
- ・ 本学調査(H21年3月)(倉元准教授)(「10月入学拡充事業実施報告書」)(資料D)

13

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



イギリスのギャップイヤー(1)

ギャップイヤーとは・・・

- ・ 資料A「民間主導による社会奉仕活動の一つ」「習慣として、大学入学資格を得た18～25歳までの若者に、入学を1年遅らせて社会見聞を広めるための猶予期間が与えられる」
- ・ 資料B「中等教育終了後大学入学までに取得する1年間」(狭義。広義には「人生の節目や生活の転機に取得するもの」)
- ・ 資料D「高校と大学の間にとり、入学する前に勉学以外の活動をするもの」(英大学関係者)

14

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



イギリスのギャップイヤー(2)

ギャップイヤーの歴史・・・

- ・ 17世紀中葉から19世紀初頭「グランドツアー」に起源。上流階級成年男子が数ヶ月～数年芸術・考古学・彫刻学など各国で学習。
- ・ 20世紀にグランドツアー復活。支援団体による若者の海外派遣開始(1957年)、以後「ギャップイヤー」の名で広がる。
- ・ 1990年代以降人気が高まる。(以上資料B)

15

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



イギリスのギャップイヤー(3)

年度	取得者数	大学合格者に占める割合
2011	16,299人	3.3%
2010	33,426人	6.9%
2009	34,049人	7.1%
2008	28,863人	7.3%
2007	28,863人	7.0%
2006	28,524人	7.3%
2005	31,059人	7.7%
2004	28,435人	7.5%
2003	28,727人	7.6%

出典:UCAS http://www.ucas.ac.uk/about_us/stat_services/stats_online/data_tables/deferring

16

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



イギリスのギャップイヤー(4)

ギャップイヤーの目的・・・

- ・ 自由旅行により様々な人と出会い、視野を広げる
- ・ 国内外でボランティア、人を助ける
- ・ 海外で働き、視野を広げ、収入を得る(資料B)

ギャップイヤーの活動・・・

- ・ 支援団体が提供するプログラムは海外ボランティアが中心。冒険旅行も。支援団体によらない個人旅行やボランティア(資料A・B)
- ・ 勉学以外のあらゆる活動が含まれ、学費を得るアルバイトも多い(資料D)

17

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



イギリスのギャップイヤー(5)

ギャップイヤーに対する評価・・・

- ・ 全体的に肯定的に受け入れられている
- ・ 経験者は成熟度が高く、自立、確固たる目的を持っている
- ・ 企業側はギャップイヤーで貴重な体験をした学生を雇用する方針(資料B)

18

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University





日本版ギャップイヤー(1)

教育再生会議第二次報告(H19)

・日本版ギャップイヤー:

3月末までに入学を決定した学生に、9月からの入学を認め、その間、ボランティア活動など多様な体験活動を行う猶予期間を与えるもの。また、4月に入学した学生に、9月までの間、多様な体験活動を認め、このような活動に対して一定の単位を与える仕組み

19

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



日本版ギャップイヤー(2)

事例1)名古屋商科大学／光陵女子短期大学

- ・平成17年度から実施。
- ・4月入学の学生が、3ヶ月間、自らの計画によりヨーロッパで見学・調査・企業訪問、ボランティア活動を実施。
- ・1人当たり約36万円の補助。
- ・教育教養科目2～10単位を授与。
(資料Bおよび同大学HP)

20

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



日本版ギャップイヤー(3)

事例2)国際教養大学

- ・平成20年度から実施
- ・3月入試、9月入学の学生10名を募集(大学院は1学科30人全員に適用)
- ・自らの計画に基づく活動(ボランティア、語学研修、フィールドワーク等)が義務づけ
- ・単位が認定
- ・自己負担

(大学HPおよび募集要項)

21

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



日本版ギャップイヤー(4)

事例3)東京大学(FLY Program)

- ・平成25年度から実施
- ・入学直後の1年間。若干名を募集(H25・11名)
- ・学生の主体的な活動(社会貢献、国際交流、就業体験等)を大学が様々な支援
- ・奨学金あり

(大学HP等)

22

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



イギリスと日本版との比較

	イギリス／ギャップイヤー	日本版ギャップイヤー
性格	学生の自発的選択を「慣習」として大学が認定	入学・履修制度の一環として公募または義務づけ(大学プログラム型)
期間	1年間が多い	3か月、9月入学・履修開始までの半年間、1年間と多様
内容	大学の勉学以外のあらゆる活動	学生の自主的活動(大学の専攻に関連する活動もある)
単位認定	なし	実施計画・報告が義務づけ。単位認定(国際教養大学等)
資金援助	なし	あり(名古屋商科大学、東京大学)なし(国際教養大学)

23

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



韓国・高麗大学

ご清聴ありがとうございました

24

東北大学高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University



3.「工学部の教育改革と機械系のクォーター制」

工学研究科副研究科長

湯上 浩雄

第11回全学教育FD (2017.03.07)

“学事暦の柔軟化：クォーター制の試行にあたって”

「工学部の教育改革と機械系のクォーター制」

工学研究科 副研究科長(教育担当)
工学研究科 機械機能創成専攻
工学部 機械知能・航空工学科

教授・湯上 浩雄

資料提供: 石川教授(機械系教務委員長) 森谷教授(工学研究科・国際交流室)
寺澤室長(機械・知能系事務室長)

東北大学 工学研究科・工学部

内 容

- (1) 工学部における教育改革と学年暦の検討
- (2) 機械系の概要
- (3) 機械系における教育のグローバル化の取組
- (4) 機械系のクォーター制の目的と概要
- (5) まとめ

東北大学 工学研究科・工学部

はじめに ～工学部の概要～

工学部	
機械知能・航空工学科	工学部 機械知能・航空工学科
機械系専攻	工学部 機械系専攻
航空系専攻	工学部 航空系専攻
化学バイオ工学科	工学部 化学バイオ工学科
材料科学創造工学科	工学部 材料科学創造工学科
建築・社会環境工学科	工学部 建築・社会環境工学科

学生数 3704名 (H28.5.1)
(全学の約30%)

東北大学 工学研究科・工学部

工学部における教育改革の概要と 学年暦の検討

「研究型大学における次世代工学教育システムの構築」【機能強化経費】(H26～)

基礎教育部門 (数学/物理/化学/英語)

学部・大学院連携教育部門

語学教育・国際交流部門

トップリーダー教育部門

(安全安心工学・物質理工学)

創造工学支援部門

社会連携部門

学生支援部門

教務企画部門

工学教育院

- 個々の教員の努力の域を超えた改革
- 学部内で共通性の高い教育の企画

- (1) 全学教育との連携のもとで
基礎科目の教育内容の改善
- (2) 到達度評価法の開発・実施
……学修レベル認定制度
- (3) 英語教育の充実
- (4) 教育国際交流の推進

東北大学 工学研究科・工学部

学修レベル認定制度について

- 目的
- ・ 学生が夢を持ち、様々なスキルを自主的に学修し身につける力を伸ばす。
 - ・ 学修する目標を明示し、個人の達成度を「総合力」として評価しエンカレッジする。

従来の問題点

- ・ 学生が自ら学んでいく意欲が少ない。
- ・ 学生に主体性が足りない。
- ・ 学びたい科目の授業ではなく安易な授業(単位
の取りやすい授業)を選択する傾向がある。
- ・ 国際感覚が乏しく英語力が低い。

教育環境の整備

- ・ 学年暦の改定を伴う教育の高密度化
- ・ 対話型科目による学生の対話力強化
- ・ 留學制度を整備し、国際性を身につける

これだけでは不十分

今回の概算要求提案

単位制制度

- ・ 体系的な教育プログラムのもとで設定された個々の授業科目。
- ・ 教育の高密度化、論理構成力、ディベート教育関連科目の設定。
- ・ 修得単位数に従って進学、卒業判定を実施(卒業単位数による出口管理)

+

学修レベル認定制度

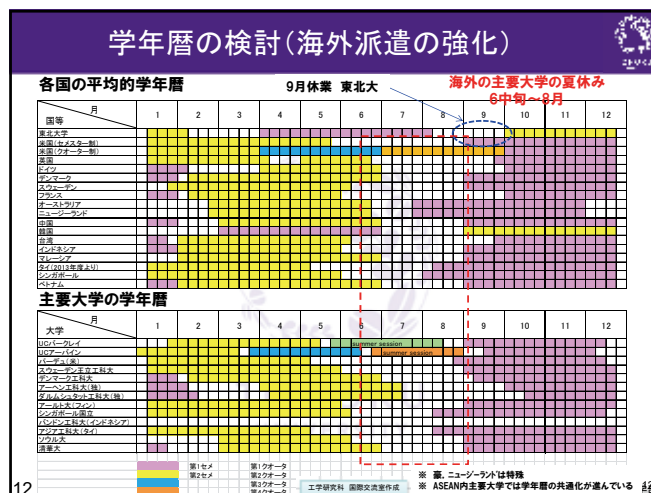
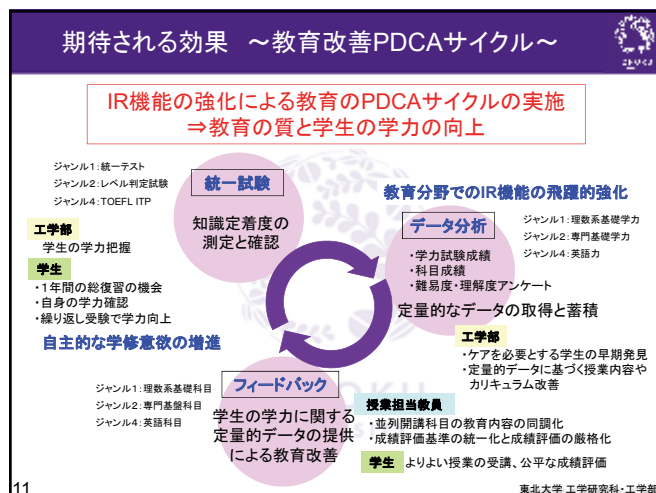
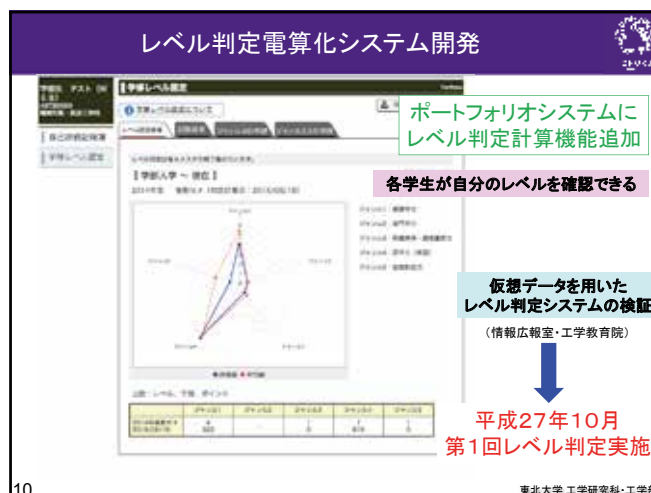
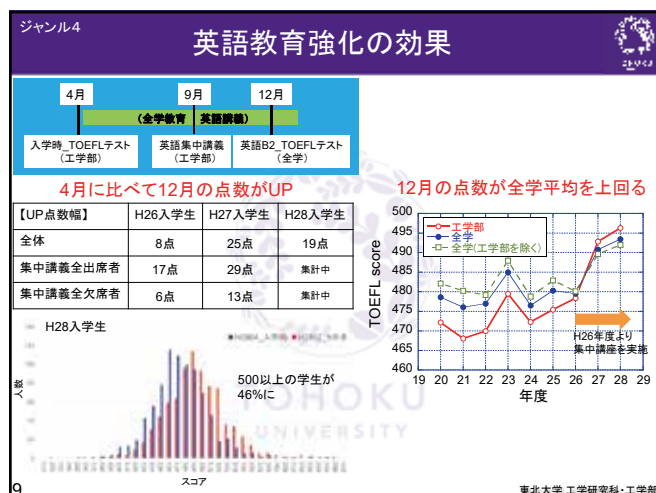
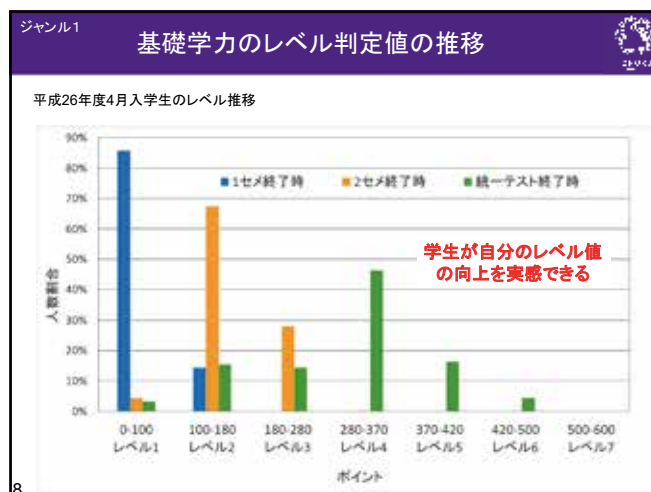
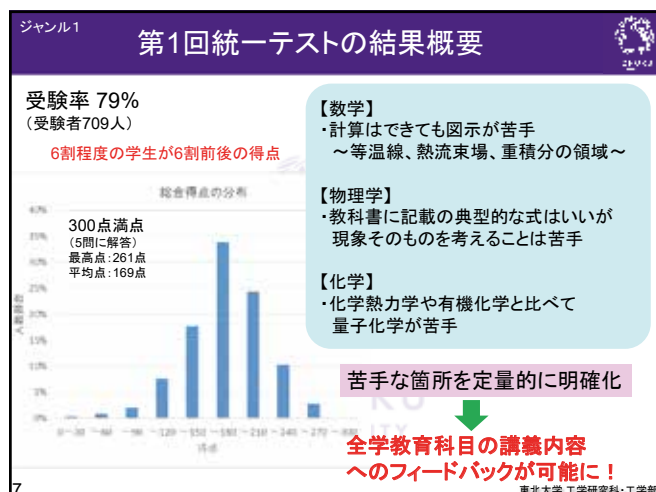
- ・ 修学の段階に応じたジャンル別の到達度(学修レベル)を明示。
- ・ 学生が自主的に個人の総合力を伸ばす意識を持つ。
- ・ レベル認定によるジャンル別の学修到達度を評価。(認定証による質保証)

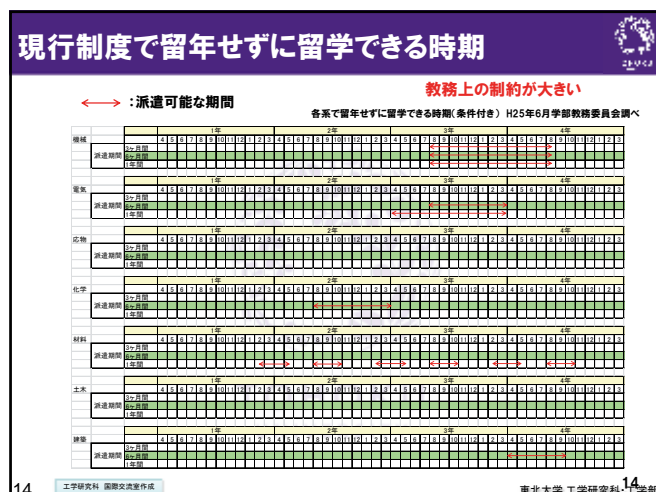
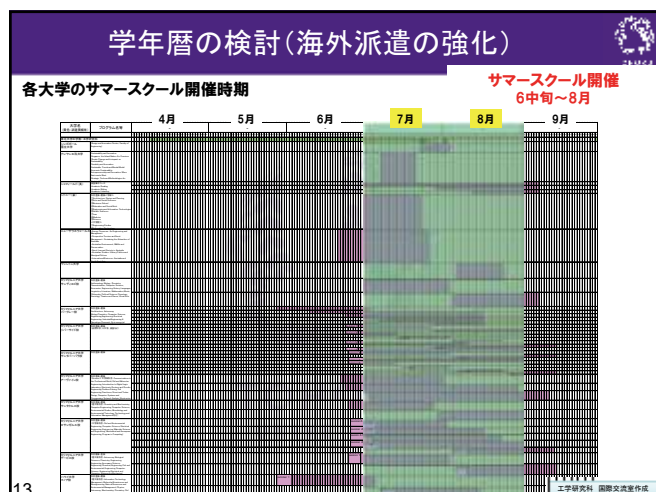
5

学修レベル設定 ～5つのジャンルで評価～

	ジャンル1. 基礎学力	ジャンル2. 専門学力	ジャンル3. 課題解決/ 論理展開力	ジャンル4. 語学(英語)力	ジャンル5. 価値創造力
レベル7	数学・理科学総合課題 (統一テスト) 成績 全学教育科目評価で判断	各系ごとの専門教育科目 (大学院科目を含む) 成績 およびレベル判定試験等の 成績	ポイント数 60以上	TOEFL-ITP成績 (600)	ポイント数 60以上
レベル6	数学・理科学総合課題 (統一テスト) 成績 全学教育科目評価で判断	各系ごとの専門教育科目 (大学院科目を含む) 成績 およびレベル判定試験等の 成績	ポイント数 50以上	TOEFL-ITP成績 (560)	ポイント数 50以上
レベル5	数学・理科学総合課題 (統一テスト) 成績 全学教育科目評価で判断	各系ごとの専門教育科目 (大学院科目を含む) 成績 およびレベル判定試験等の 成績	ポイント数 40以上	TOEFL-ITP成績 (530)	ポイント数 40以上
レベル4	数学・理科学総合課題 (統一テスト) 成績 全学教育科目評価で判断	各系ごとの専門教育科目 (大学院科目を含む) 成績 およびレベル判定試験等の 成績	ポイント数 30以上	TOEFL-ITP成績 (500)	ポイント数 30以上
レベル3	数学・理科学総合課題 (統一テスト) 成績 全学教育科目評価で判断	各系ごとの専門教育科目 (大学院科目を含む) 成績 およびレベル判定試験等の 成績	ポイント数 20以上	TOEFL-ITP成績 (480)	ポイント数 20以上
レベル2	数学・理科学総合課題 (統一テスト) 成績 全学教育科目評価で判断	各系ごとの専門教育科目 (大学院科目を含む) 成績 およびレベル判定試験等の 成績	ポイント数 10以上	TOEFL-ITP成績 (460)	ポイント数 10以上
レベル1	基礎点	基礎点	基礎点	基礎点	基礎点

6





学年暦変更案の比較

案	制度	内容	サマープログラムに興味ある学生から見た利点と欠点	効果	履修変更難易度
1	セメスター制 (7, 8月を夏休み)	* 9月に春セメ履修と補講、試験を行い、7, 8月を夏休みとする層 * 6～8月に夏休みとなる海外の大学の学年暦にできるだけ合わせるようにしたもの。	* 本学での講義が無いので行き遅く、また選択の幅が広がる 注) ただし、交換留学生者に不利	大	中
2	クォーター制	* 4, 5月(第10), 6, 7月(第20), 10, 11月(第30), 12, 1月(第40)の期間に授業を行う層 * 7月が夏休みとならないところが問題。	* 第20に必修科目があると行けない 注) 交換留学生者に有利	中	難
3	変則クォーター制 (7, 8月を夏休み)	* 第2クォーターを2分して、7, 8月を夏休みとする層 * クォーター制にすることで夏休み以外でも短期留学が容易になる。	* 本学での講義が無いので行き遅く、また選択の幅が広がる 注) ただし、交換留学生者に不利	大	難

注) 案1, 3のように学期を分割する場合のデメリット
通達留学者は通常2月～9月頃に渡航する。よって、セメスターあるいはクォーターの途中での渡航となるため、単位取得が困難になる可能性がある。

15 工学研究科 国際交流室作成 東北大学 工学研究科・工学部

機械系の概要

工学部 機械・知能航空工学科の教員・学生数

教員および学生数(平成28年5月1日現在)

教員数	学生数
教授 70名	学部 1,121名
准教授 73名	大学院(前期) 510名
講師 1名	大学院(後期) 178名
助教 47名	
合計 191名	合計 1,809名

全学学生の約10%が所属

16 工学研究科 国際交流室作成 東北大学 工学研究科・工学部

機械系の組織運営の基本理念

- 中長期的視点に立った組織と教育の改革
 - 組織および教育改革の推進には中長期的スケールでの取り組みが不可欠
- 管理運営の透明性確保と効率化 (トップダウン意思決定の強化)
 - ・機械系人事及び管理運営関連資料の整備(89ページ)
 - ・系長制度の強化 (任期2年(再任可):主任専攻長兼務)
 - 管理運営の集中化・権限強化
 - 教員人事の一元的管理 (約120名)
 - 系長への支援(支援教員と研究費の配分)
 - ・研究教育時間の確保
 - サバディカルリブ制度 (平成9年度～)

・構成員による十分な議論のうえで結論(Action Plan)を得る
・決まったことは全員で実行する
・系長(chairman)による意思決定の迅速化と一元化

17 工学研究科 国際交流室作成 東北大学 工学研究科・工学部

機械系における教育のグローバル化の取組 (グローバル30事業の一環として)

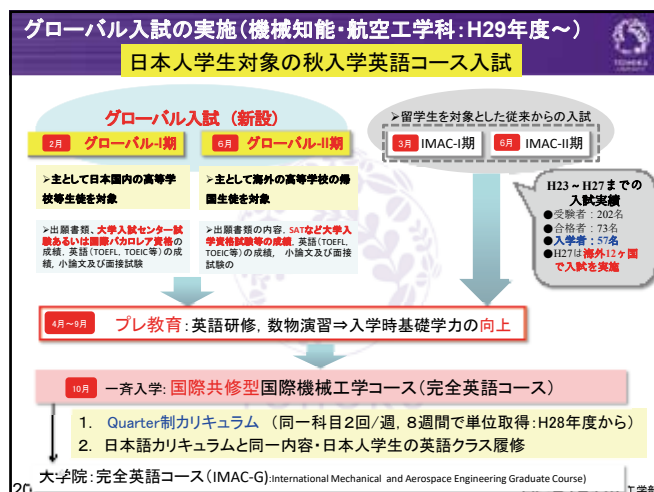
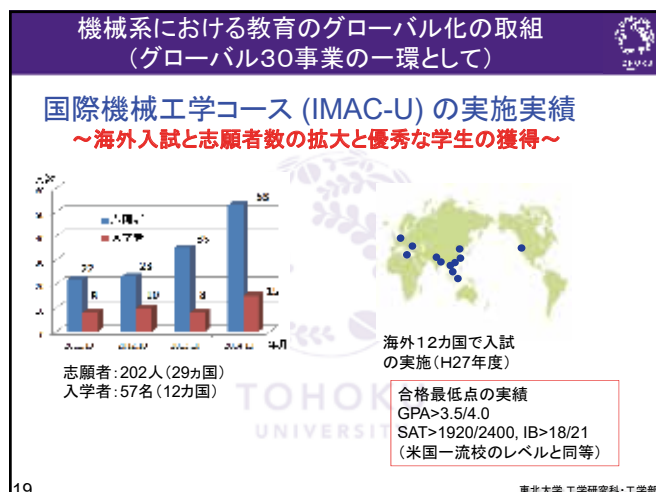
学部 及び 大学院(前期・後期課程)

国際機械工学コース(学士・修士・博士)

International Mechanical and Aerospace Engineering Course Graduate Course (IMAC-U)& (IMAC-G)

9年一貫の日本語コースと併存する英語コースの整備

18 工学研究科 国際交流室作成 東北大学 工学研究科・工学部



機械系におけるクォーター制検討経緯

2012年度 カリキュラム委員会設置

2013年度 基本方針の決定
(この時点ではクォーター制は入っていない)

2014年度 クォーター制を前提とした基本方針の決定

2015年度 機械系教務委員会で学生便覧の変更と時間割策定

2016年度 1年生がクォーター制に移行
(学年進行でカリキュラム変更)

2016年度 2017年度時間割策定

2017年度 2018年度時間割策定 (5, 6セメ)

東北大学 工学研究科・工学部

機械系におけるクォーター制導入の目的と概要

(1) 学部学生の国際モビリティの向上
(2) 単位の国際通用性の向上
(3) 教育効果の向上

工学研究科 国際交流室作成
東北大学 工学研究科・工学部

機械系におけるクォーター制導入の目的と概要

(1) 学部学生の国際モビリティの向上

カリキュラムの関係で留学可能な時期が限定的
(一部の留学希望者に合わせてカリキュラム変更は現実的でない)
(英語が話せる・国際経験があることが工学教育の本質ではない)

交換留学に6月頃から出発、11月頃に帰国する学生
既存のセメスターでは1年間を無駄にする

クォーター制導入により
(留年せずに) 留学可能な窓(Window)を広げる

東北大学 工学研究科・工学部

機械系におけるクォーター制導入の目的と概要

(1) 学部学生の国際モビリティの向上
海外留学学生の「過去の単位認定リスト」の公開
(米国、欧州)

実験実習科目の単位互換

留学前に単位互換の情報を学生と共有
課題: 互換する単位数が大きく異なる

東北大学 工学研究科・工学部

交換留学生

海外学生 帰国時に本学の1科目を読み替えられる？

例) 流体力学Ⅰ(2単位:3セメ) 流体力学Ⅱ(2単位:5セメ)

例) 機械力学Ⅰ(2単位:2年次3Q) 機械力学Ⅱ(2単位:2年次4Q)

海外大学の単位を無駄なく本学単位に互換可能

半年の留学でも基幹科目4単位を母国大学に持って帰れる

学部・大学院における国際共同教育のシステム構築の第一歩

東北大学 工学研究科・工学部

視点

- ・少数科目を短期間(2か月)で**集中的に学習**
- ・機械工学の基幹となる4力学+制御を**2つの連続するクォーターに配置**することで、2科目を共通の教科書(世界的名著など)で講義できる。

・基幹科目は連続する2クォーターに配置

(流体力学Ⅰ・Ⅱは数学の学習内容との整合のため分離)

廃止 34科目 新設15科目 統合 3科目

削減した科目数⇒英語開講クラスの増設

5セメ: 9科目

6セメ: 4科目

7セメ: 17科目

大学院開講科目へ変更
(工学教育院:6年一貫教育)

東北大学 工学研究科・工学部

	第1学期 1学期	第2学期 2学期	第3学期 3学期	第4学期 4学期	第5学期 5学期	第6学期 6学期
1	日本語基礎1 基礎日本語1 1単位	日本語基礎2 基礎日本語2 1単位	英語基礎1 基礎英語1 1単位	英語基礎2 基礎英語2 1単位	英語基礎3 基礎英語3 1単位	英語基礎4 基礎英語4 1単位
2	日本語基礎3 基礎日本語3 1単位	日本語基礎4 基礎日本語4 1単位	英語基礎5 基礎英語5 1単位	英語基礎6 基礎英語6 1単位	英語基礎7 基礎英語7 1単位	英語基礎8 基礎英語8 1単位
3	日本語基礎5 基礎日本語5 1単位	日本語基礎6 基礎日本語6 1単位	英語基礎9 基礎英語9 1単位	英語基礎10 基礎英語10 1単位	英語基礎11 基礎英語11 1単位	英語基礎12 基礎英語12 1単位
4	日本語基礎7 基礎日本語7 1単位	日本語基礎8 基礎日本語8 1単位	英語基礎13 基礎英語13 1単位	英語基礎14 基礎英語14 1単位	英語基礎15 基礎英語15 1単位	英語基礎16 基礎英語16 1単位
5	日本語基礎9 基礎日本語9 1単位	日本語基礎10 基礎日本語10 1単位	英語基礎17 基礎英語17 1単位	英語基礎18 基礎英語18 1単位	英語基礎19 基礎英語19 1単位	英語基礎20 基礎英語20 1単位
6	日本語基礎11 基礎日本語11 1単位	日本語基礎12 基礎日本語12 1単位	英語基礎21 基礎英語21 1単位	英語基礎22 基礎英語22 1単位	英語基礎23 基礎英語23 1単位	英語基礎24 基礎英語24 1単位
7	日本語基礎13 基礎日本語13 1単位	日本語基礎14 基礎日本語14 1単位	英語基礎25 基礎英語25 1単位	英語基礎26 基礎英語26 1単位	英語基礎27 基礎英語27 1単位	英語基礎28 基礎英語28 1単位
8	日本語基礎15 基礎日本語15 1単位	日本語基礎16 基礎日本語16 1単位	英語基礎29 基礎英語29 1単位	英語基礎30 基礎英語30 1単位	英語基礎31 基礎英語31 1単位	英語基礎32 基礎英語32 1単位
9	日本語基礎17 基礎日本語17 1単位	日本語基礎18 基礎日本語18 1単位	英語基礎33 基礎英語33 1単位	英語基礎34 基礎英語34 1単位	英語基礎35 基礎英語35 1単位	英語基礎36 基礎英語36 1単位
10	日本語基礎19 基礎日本語19 1単位	日本語基礎20 基礎日本語20 1単位	英語基礎37 基礎英語37 1単位	英語基礎38 基礎英語38 1単位	英語基礎39 基礎英語39 1単位	英語基礎40 基礎英語40 1単位
11	日本語基礎21 基礎日本語21 1単位	日本語基礎22 基礎日本語22 1単位	英語基礎41 基礎英語41 1単位	英語基礎42 基礎英語42 1単位	英語基礎43 基礎英語43 1単位	英語基礎44 基礎英語44 1単位
12	日本語基礎23 基礎日本語23 1単位	日本語基礎24 基礎日本語24 1単位	英語基礎45 基礎英語45 1単位	英語基礎46 基礎英語46 1単位	英語基礎47 基礎英語47 1単位	英語基礎48 基礎英語48 1単位
13	日本語基礎25 基礎日本語25 1単位	日本語基礎26 基礎日本語26 1単位	英語基礎49 基礎英語49 1単位	英語基礎50 基礎英語50 1単位	英語基礎51 基礎英語51 1単位	英語基礎52 基礎英語52 1単位
14	日本語基礎27 基礎日本語27 1単位	日本語基礎28 基礎日本語28 1単位	英語基礎53 基礎英語53 1単位	英語基礎54 基礎英語54 1単位	英語基礎55 基礎英語55 1単位	英語基礎56 基礎英語56 1単位
15	日本語基礎29 基礎日本語29 1単位	日本語基礎30 基礎日本語30 1単位	英語基礎57 基礎英語57 1単位	英語基礎58 基礎英語58 1単位	英語基礎59 基礎英語59 1単位	英語基礎60 基礎英語60 1単位
16	日本語基礎31 基礎日本語31 1単位	日本語基礎32 基礎日本語32 1単位	英語基礎61 基礎英語61 1単位	英語基礎62 基礎英語62 1単位	英語基礎63 基礎英語63 1単位	英語基礎64 基礎英語64 1単位
17	日本語基礎33 基礎日本語33 1単位	日本語基礎34 基礎日本語34 1単位	英語基礎65 基礎英語65 1単位	英語基礎66 基礎英語66 1単位	英語基礎67 基礎英語67 1単位	英語基礎68 基礎英語68 1単位
18	日本語基礎35 基礎日本語35 1単位	日本語基礎36 基礎日本語36 1単位	英語基礎69 基礎英語69 1単位	英語基礎70 基礎英語70 1単位	英語基礎71 基礎英語71 1単位	英語基礎72 基礎英語72 1単位
19	日本語基礎37 基礎日本語37 1単位	日本語基礎38 基礎日本語38 1単位	英語基礎73 基礎英語73 1単位	英語基礎74 基礎英語74 1単位	英語基礎75 基礎英語75 1単位	英語基礎76 基礎英語76 1単位
20	日本語基礎39 基礎日本語39 1単位	日本語基礎40 基礎日本語40 1単位	英語基礎77 基礎英語77 1単位	英語基礎78 基礎英語78 1単位	英語基礎79 基礎英語79 1単位	英語基礎80 基礎英語80 1単位
21	日本語基礎41 基礎日本語41 1単位	日本語基礎42 基礎日本語42 1単位	英語基礎81 基礎英語81 1単位	英語基礎82 基礎英語82 1単位	英語基礎83 基礎英語83 1単位	英語基礎84 基礎英語84 1単位
22	日本語基礎43 基礎日本語43 1単位	日本語基礎44 基礎日本語44 1単位	英語基礎85 基礎英語85 1単位	英語基礎86 基礎英語86 1単位	英語基礎87 基礎英語87 1単位	英語基礎88 基礎英語88 1単位
23	日本語基礎45 基礎日本語45 1単位	日本語基礎46 基礎日本語46 1単位	英語基礎89 基礎英語89 1単位	英語基礎90 基礎英語90 1単位	英語基礎91 基礎英語91 1単位	英語基礎92 基礎英語92 1単位
24	日本語基礎47 基礎日本語47 1単位	日本語基礎48 基礎日本語48 1単位	英語基礎93 基礎英語93 1単位	英語基礎94 基礎英語94 1単位	英語基礎95 基礎英語95 1単位	英語基礎96 基礎英語96 1単位
25	日本語基礎49 基礎日本語49 1単位	日本語基礎50 基礎日本語50 1単位	英語基礎97 基礎英語97 1単位	英語基礎98 基礎英語98 1単位	英語基礎99 基礎英語99 1単位	英語基礎100 基礎英語100 1単位
26	日本語基礎51 基礎日本語51 1単位	日本語基礎52 基礎日本語52 1単位	英語基礎101 基礎英語101 1単位	英語基礎102 基礎英語102 1単位	英語基礎103 基礎英語103 1単位	英語基礎104 基礎英語104 1単位
27	日本語基礎53 基礎日本語53 1単位	日本語基礎54 基礎日本語54 1単位	英語基礎105 基礎英語105 1単位	英語基礎106 基礎英語106 1単位	英語基礎107 基礎英語107 1単位	英語基礎108 基礎英語108 1単位
28	日本語基礎55 基礎日本語55 1単位	日本語基礎56 基礎日本語56 1単位	英語基礎109 基礎英語109 1単位	英語基礎110 基礎英語110 1単位	英語基礎111 基礎英語111 1単位	英語基礎112 基礎英語112 1単位
29	日本語基礎57 基礎日本語57 1単位	日本語基礎58 基礎日本語58 1単位	英語基礎113 基礎英語113 1単位	英語基礎114 基礎英語114 1単位	英語基礎115 基礎英語115 1単位	英語基礎116 基礎英語116

実験・実習

週2クォーター開講科目
日本語:4クラス
英語:1クラス

東北大学 工学研究科・工学部

・学生の教育効果が本当に上がるのか？
検証されていない(少なくとも本学では)

・どのようなルール変更や制度設計変更が必要か？
 （履修登録や成績の付け方、セメスターバリアなど）
 全学教育はセメスター（検討当時）
 工学部共通科目はセメスター
 大学院はセメスター

・どの講義が対応でき、どの講義が対応できないか？

- ・再履修の取り扱い
- ・実験や実習などのセメスター科目との融合、クラス分け
- ・時間割に自由度が少ない

- ・再履修の取り扱い
- ・実験や実習などのセメスター科目との融合、クラス分け
- ・時間割に自由度が少ない

東北大学 工学研究科・工学部 28

- ・専門科目開講カレンダーは工学部共通のものを用いて、**クォーターの区切りは全学教育のものを参照**
- ・科目登録や成績評価期間に**ついでには、工学部共通のカレンダーに従うクォーター制に伴う業務の増大を防ぐ**
偶数クォーターの履修変更を可能とすることは今後の課題
- ・セメスタバリア
セメスタあたりの標準履修単位数の変化に伴い設定し直す

- ・実験実習はセメスター開講とする
- ・座学は基本的に週2クォーター科目とする
- ・工学部共通科目は現状維持
- ・教室数による開講数の上限(一部川内教室を借用)

- ・学年進行での実施のためカリキュラムが混在する
- ・再履修や先取り履修を可能とするために読み替え表を整備

- ・学年進行での実施のためカリキュラムが混在する
- ・再履修や先取り履修を可能とするために読み替え表を整備

東北大学 工学研究科・工学部

- ・全学教育との連携の下での教育改革
(理科・英語教育の連携)
- ・6年間にわたる英語教育の強化
- ・学生国際交流の強化

→ 研究力強化につながるものであるべき

機械系の教育理念(個人的理解)

国籍・ジェンダー・学んだ国に関わらず共に学び切磋琢磨することで
機械工学を基盤として世界に貢献できるリーダーを養成する
(21世紀の門戸開放の理念)

- ・学部から大学院までの一貫したグローバル教育環境の実現の一部
- ・学年歴のみの変更ではなくて、カリキュラム構成や科目数の最適化が必須
- ・教育効果の向上に関する検証をどうするのか

東北大学 工学研究科・工学部

4.「東北大学のクォーター制について」

学務審議会教務委員長
静谷 啓樹

東北大学のクォーター制について



東北大学学務審議会教務委員会 委員長 静谷啓樹

東北大学のクォーター制

平成29年度より年次進行で試行

1. 経緯 背景とこれまでの検討過程
2. 概要 試行するクォーター制の骨子
3. 課題 本格実施に向けた検討事項
4. 考察 「週1クォーター科目」について
(学務審議会教務委員会の見解ではありません)

2

1. 経緯

1.1 背景

- ◆「里見ビジョン」(平成25年8月)
Vision1・主要施策①:
「多様な学びを提供するためのクォーター制の導入」
「入学・卒業時期を含めた学事歴の柔軟化等」
(cf. 平成25年4月・改正「大学設置基準」第23条の施行)
- ◆東北大学における教育改革
 - ・GPA制度の整備(平成28年度)
 - ・科目ナンバリングとカリキュラムマップ(平成28年度)
 - ・「東北大学シラバス作成基準」の改正(平成28年度)
(記載項目の充実、英文併記)
 - ・学事歴の検討(平成26年9月～)
→ **教育改革の一環としてのクォーター制**

3

1. 経緯

1.2 柔軟な学事歴の検討

- ◆平成26年9月 「柔軟な学事歴検討PT」の設置
(PTリーダー: 理事(教育・学生支援・教育国際交流担当))
- ◆平成27年10月 PT「中間報告」
→ クォーター制試行の提言
- ◆平成27年10月 学務審議会
「柔軟な学事歴検討WG」の設置
(WG座長: 学務審議会教務委員長)
→ 「中間報告」の実現可能性を検討
- ◆平成28年2月 WG「報告書」
→ 「中間報告」を一部変更して実施可能
- ◆平成28年3月末 PT「最終報告書」

4

1. 経緯

1.3 学事歴見直しの意義

- (1) **学習効果の向上**
履修科目を減らし、授業外学習時間を確保
週複数回の授業で深い学習へと導く
- (2) **教育指導の充実と研究の高度化**
教育を特定のクォーターに集中させ効率性を高め、
研究に専念する期間を設定可能
- (3) **グローバル化への対応**
留学による留年リスクを軽減、海外派遣を容易に
本学サマープログラム等の受入れも促進

【「PT最終報告書概要」より】

5

1. 経緯

1.4 学事歴改革の基本方針

- ◆本学の学生に「**学び方を学ぶ**」機会を提供するため、
各科目の特性を十分に生かしつつ、クォーターでの授
業実施を可能とした柔軟な学事歴
- ◆クォーター科目と**セメスター科目**、クォーター科目に
あつては**週1クォーター科目**(週1回の授業実施で8週・
8回で完結)と**週2クォーター科目**(週2回の授業実施で
8週・15回で完結)、そのすべてが共存できる学事歴

【「PT最終報告書概要」より】

6

1.5 学事暦柔軟化への提言

- ◆平成29年度より数年間、1学期を二つに分けるクォーター制を年次進行により試行し、本格実施は完全セメスター制への復帰の可能性も排除せずに検討
- ◆全学教育は必須、専門教育は医学・歯学を除く8学部が可能な限り実施
- ◆学生の授業時間外学修を充実させるように授業設計の改善
- ◆ミニ・サバティカル制度の導入検討
- ◆サマースクールに参加できるように、特に3セメスター、5セメスターのクォーター化の継続検討

【「PT最終報告書概要」より】

7

1.5 学事暦柔軟化への提言 (続き)

- ◆全学教育科目と専門教育の割当曜日比率は現行どおり
- ◆1単位授業回数(期末試験及びそのフィードバックを含む)は、講義は計8回、演習・実験科目は計16回
- ◆土曜・日曜は休日、原則として祝日も休日
- ◆全学教育学年暦を基準に各学部・研究科の学年暦編成
- ◆学務審議会でも継続的に検討し、試行後のことは可能な限り早期(試行が3年間のときは平成31年6月までに)結論

【「PT最終報告書概要」より】

8

2.1 クォーター制の骨子

「PT最終報告書」の提言どおり

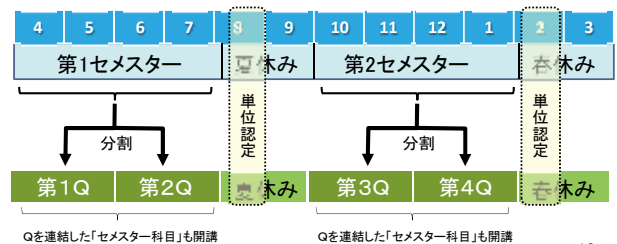
提言(再掲)

- ◆平成29年度より数年間、1学期を二つに分けるクォーター制を年次進行により試行し、本格実施は完全セメスター制への復帰の可能性も排除せずに検討
- ◆全学教育は必須、専門教育は医学・歯学を除く8学部が可能な限り実施
- ◆学生の授業時間外学修を充実させるように授業設計の改善
- ◆ミニ・サバティカル制度の導入検討
- ◆サマースクールに参加できるように、特に3セメスター、5セメスターのクォーター化の継続検討
- ◆全学教育科目と専門教育の割当曜日比率は現行どおり
- ◆1単位授業回数(期末試験及びそのフィードバックを含む)は、講義は計8回、演習・実験科目は計16回
- ◆土曜・日曜は休日、原則として祝日も休日
- ◆全学教育学年暦を基準に各学部・研究科の学年暦編成
- ◆学務審議会でも継続的に検討し、試行後のことは可能な限り早期(試行が3年間のときは平成31年6月までに)結論

9

2.2 クォーター制の学年暦

- ◆現行セメスターを2分割、4つのクォーター(Q)を設定
- ◆科目の特性により、クォーター科目とセメスター科目が併存可能
ただし、単位認定はセメスター終了時
- ◆年次進行で試行(平成29年度は1年次学生のみ)



10

2.3 開講パターン

- 週2クォーター科目** クォーター制の学事暦にあわせて開講する週2コマの授業
週2コマ(月曜と木曜 or 火曜と金曜)×8週
- 週1クォーター科目** クォーター制の学事暦にあわせて開講する週1コマの授業
週1コマ×8週
- セメスター科目** Qを連結したセメスターにあわせて開講する週1コマの授業
週1コマ×16週



11

2.4 授業日程

◆平成29年度の授業期間(1年次学生)

第1学期授業 (第1セメスター)	第1クォーター	4月 7日(金)～ 6月8日(木)
	第2クォーター	6月 5日(月)～ 8月4日(金)
第2学期授業 (第2セメスター)	第3クォーター	10月 2日(月)～ 12月1日(金)
	第4クォーター	11月28日(火)～ 2月5日(月)

※第2・第4クォーターは、週2クォーター科目が16回目、週1クォーター科目が8回目の授業が終了した曜日から開始

◆授業期間の呼称

1年次		2年次	
第1学期	第2学期	第1学期	第2学期
第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
第1クォーター	第2クォーター	第3クォーター	第4クォーター

12

2. 概要

平成29年度全学教育科目実施学年暦

各曜日8回+8回

入学式4月5日
オリエンテーション
5日午後～6日

クォーターの境界は
クォーター科目の
完結後(曜日で違う)

創立記念日は
授業実施

オープン
キャンパス

集中講義

クォーターの境界は
クォーター科目の
完結後(曜日で違う)

年末は26日まで
授業実施

年始は4日から

集中講義

13

2. 概要

平成29年度全学教育科目授業日程

履修登録期間
第1学期に履修するセメスター科目、クォーター科目を登録

履修取消期間
第1学期と第1クォーター科目の取消: 4/21-4/20
第2クォーター科目の取消: 6/19-6/29

履修登録期間
第2学期に履修するセメスター科目、クォーター科目を登録

履修取消期間
第2学期と第3クォーター科目の取消: 10/17-10/23
第4クォーター科目の取消: 12/12-12/22

14

2. 概要

2.5 パターン別開講クラス数

(平成29年2月21日現在)

平成29年度全学教育科目

開講パターン	開講クラス数
週2クォーター科目	417
週1クォーター科目	650
セメスター科目	1,036
合計	2,103

50.74%

49.26%

15

3. 課題

3.1 今後の予定

- ◆平成29年度より数年間、クォーター制を年次進行により試行
- ◆試行期間終了後の学事暦については学務審議会において継続的に検討し、可能な限り早期に結論
- ◆試行が3年間のときは平成31年6月までに結論(完全セメスター制への復帰の可能性を排除しない)

16

3. 課題

3.2 本格実施に向けた検討事項

- ◆学生の授業時間外学修を充実させる授業設計
- ◆単位制の実質化の趣旨に沿ったキャップ制の導入
- ◆ミニ・サバティカル制度の導入検討
- ◆学生が北半球のサマースクールに参加できるように完全クォーター化の継続検討(特に現行第3セメスターと第5セメスター)

17

以降に記載の内容は学務審議会教務委員会の見解ではありません

18

4. 考察

週1クォーター科目の再評価

週1クォーター科目の特徴

- ◆ 現行セメスター科目を2分割して移行できる
- ◆ 非常勤講師による担当が週2Q科目より容易
- ◆ クォーター制の利点を実現できる

クォーター制の意義
(PT最終報告書より)

- (1) 学習効果の向上
履修科目を減らし、授業外学習時間を確保
週複数回の授業で深い学習へと導く
- (2) 教育指導の充実と研究の高度化
教育を特定のクォーターに集中させ効率性を高め、
研究に専念する期間を設定可能
- (3) グローバル化への対応
留学による留年リスクを軽減、海外派遣を容易に
本学サマープログラム等の受入れも促進

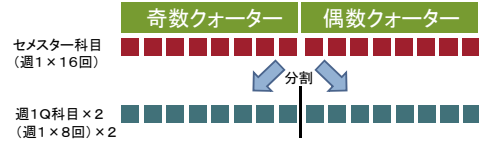
19

4. 考察

「意義(1)」について

- (1) 学習効果の向上
履修科目を減らし、授業外学習時間を確保
週複数回の授業で深い学習へと導く

◆ セメスター科目の2分割による週1クォーター科目



- ・ 期末試験や期末レポートに向けた学修の機会を2回にできる
- ・ 期末までの時間が短く、学修意欲や動機を維持しやすい

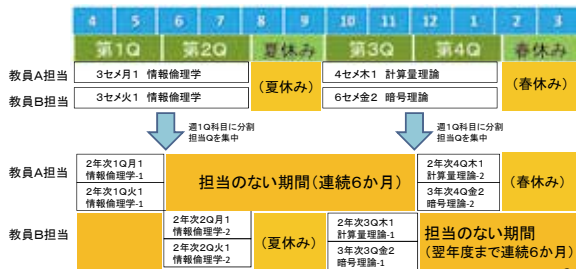
20

4. 考察

「意義(2)」について

- (2) 教育指導の充実と研究の高度化
教育を特定のクォーターに集中させ効率性を高め、
研究に専念する期間を設定可能

◆ 週1クォーター科目を利用した担当期間の集中例



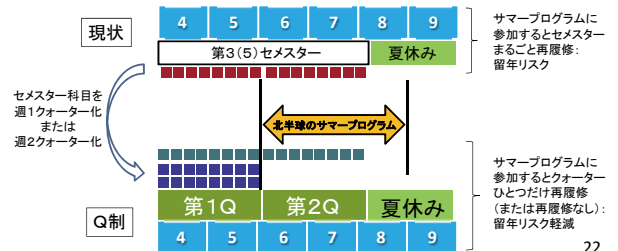
21

4. 考察

「意義(3)」について

- (3) グローバル化への対応
留学による留年リスクを軽減、海外派遣を容易に
本学サマープログラム等の受入れも促進

◆ 特に3セメ・5セメ配当科目のクォーター科目化



22

おわりに

- ◆ 東北大学のクォーター制について、経緯・概要・課題を紹介(私見として「週1Q科目」の意義を紹介)
- ◆ 年次進行でクォーター制を試行:
従来の教育実施体制との親和を図りながら、クォーター制のメリットを引き出せる具体策を全学的な協力を得て検討したい

23

5. 「広島大学のクォーター制の実施とその現状」

広島大学教育本部准教授
吉田 香奈

広島大学のクォーター制 の実施とその現状

吉田香奈(広島大学 教育本部)

広島大学の概要

学部学生(11学部)	10,883人(平成28年11月1日現在)
大学院生(11研究科)	4,379人(平成28年11月1日現在)
専攻科学生	18人(平成28年11月1日現在)
研究生・科目等履修生	300人(平成28年11月1日現在)
学部卒業生数累計	131,967人(平成28年3月現在)
役員数	10人(平成28年5月1日現在)
教員数	1,679人(平成28年5月1日現在)
職員数	1,618人(平成28年5月1日現在)
外国人留学生72カ国(地域)	1,451人(平成28年11月1日現在)
海外留学	年間約680名(平成26年度実績)

クォーター制導入の経緯

- ✓ 平成25年5月 役員会・教育研究評議会
→「広島大学の機能強化に向けた行動計画2012」で、3学期制または4学期制への移行について検討
- ✓ 平成25年6月～平成26年1月
→学年暦見直しWG等で見直しの方針案を作成
- ✓ 平成26年2月 部局長等意見交換会
→上記で作成した学年暦の見直し方針案を提示
- ✓ 平成26年5月 教育研究評議会
→学年暦の見直し方針案を承認

クォーター制導入の経緯

- ✓ 学生説明会
→ 延べ6回の説明会を実施(平成26年12月)
- ✓ 教員向け説明会
→ 全学部・研究科を巡り、教授会や教務委員会で説明(平成26年12月～平成27年1月)
- ✓ 職員向け説明会
→ 全学部・研究科の学生系事務に説明(平成26年12月)
- ✓ 平成27年度
→ 試行的導入。各学部・研究科および教養教育の一部の科目
- ✓ 平成28年度
→ 本格導入 (参考)平成28年度のターム科目数

学士課程(教養教育科目含む):1096科目
大学院課程:982科目 } 全科目数の約20%

クォーター制導入の目的

☆授業を短期間で集中的に受講することによる教育効果の向上

→1科目に対して重点的に予習・復習等を行うことができ、学生の主体的な学修を促します。

☆留学やボランティア活動といった学生の自主的な学習体験の促進

→履修方法を工夫することで、留学やインターンシップ、ボランティア活動などに参加しやすい環境を整備します。

クォーター制導入における主な変更点(1)

(1)学年暦(授業スケジュール)について

現行の前期・後期の授業期間をそれぞれ前半・後半の2つの期間に分けた「第1タームから第4ターム」を設け、以下の学年暦(授業スケジュール)で授業を実施します。

	4月	5月	6月	7月
平成26年度(セメスター制)	前期 4/9 ~ 8/4			
平成27年度(クォーター制)	第1ターム 4/8 ~ 6/10	第2ターム 6/11 ~ 8/11	第3ターム 10/1 ~ 12/2	第4ターム 12/3 ~ 2/15

留学促進のために必須科目の設定を避けていただく旨を全てのプログラムに依頼

※各ターム終わりの2日間は授業予備日とし、平成27年度は気象警報等の発令により、休講になった場合に、授業を実施します。平成28年度は、主に教養教育科目の試験日とする予定です。

クォーター制導入における主な変更点(2)

(2) 授業科目の開講区分について

クォーター制(4学期制)では、下記の区分で授業を実施します。

・ターム科目

→各ターム内で週2回の授業を行い8週で完結する授業科目

・セメスター科目

→従来通り、前期・後期の区分で開講し、週1回の授業を行い16週で完結する授業科目

7

平成28年度クォーター制導入に向けた教養教育科目及び教職に関する科目の時間割シミュレーションについて

【現行】セメスター制

前期

	月	火	水	木	金
1	A	F	K	P	U
2	B	G	L	Q	V
3	C	H	M	R	W
4	D	I	N	S	X
5	E	J	O	T	Y

- ✓ 在学生への配慮
- ✓ 教員への配慮
- ✓ 非常勤講師の負担軽減
- ✓ 学び方の変革: アクティブラーニングの促進
- ✓ 柔軟な運用による教育効果の向上: ターム(連続、ペア(月木、火金))、セメスター
- ✓ 科目数減→講義室の確保

【平成28年度】クォーター制

第1ターム					
	月	火	水	木	金
1	A	F	K	P	U
2	A	F	K	P	U
3	C	H	M	R	W
4	C	H	M	R	W
5	E	J	O	T	Y

第2ターム					
	月	火	水	木	金
1	B	G	L	Q	V
2	B	G	L	Q	V
3	D	I	N	S	X
4	D	I	N	S	X
5	E	J	O	T	Y

→午前2コマ連続

→午後2コマ連続

→セメスター科目: 月・水・木・金、ペア科目: 火・金

8

クォーター制導入における主な変更点(3)

(3) 履修登録手続きについて

①これまでは、授業開始日から履修登録最終日まで2週間ありましたが、ターム制では、1週間で履修登録を行うことになります。

【前期履修登録の場合】

・履修を希望する第1ターム科目、第2ターム科目及び前期セメスター科目、集中科目すべての登録を行います。

平成26年度(セメスター制)	
4	7
5	8
6	9
7	10
8	11
9	12
10	13
11	14
12	15
13	16
14	17
15	18
16	19
17	20
18	21
19	22
20	23
21	24
22	25
23	26
24	27
25	28
26	29
27	30
28	31
29	1
30	2
31	3
32	4
33	5
34	6
35	7
36	8
37	9
38	10
39	11
40	12
41	13
42	14
43	15
44	16
45	17
46	18
47	19
48	20
49	21
50	22
51	23
52	24
53	25
54	26
55	27
56	28
57	29
58	30
59	31
60	1
61	2
62	3
63	4
64	5
65	6
66	7
67	8
68	9
69	10
70	11
71	12
72	13
73	14
74	15
75	16
76	17
77	18
78	19
79	20
80	21
81	22
82	23
83	24
84	25
85	26
86	27
87	28
88	29
89	30
90	31
91	1
92	2
93	3
94	4
95	5
96	6
97	7
98	8
99	9
100	10
101	11
102	12
103	13
104	14
105	15
106	16
107	17
108	18
109	19
110	20
111	21
112	22
113	23
114	24
115	25
116	26
117	27
118	28
119	29
120	30
121	31
122	1
123	2
124	3
125	4
126	5
127	6
128	7
129	8
130	9
131	10
132	11
133	12
134	13
135	14
136	15
137	16
138	17
139	18
140	19
141	20
142	21
143	22
144	23
145	24
146	25
147	26
148	27
149	28
150	29
151	30
152	31
153	1
154	2
155	3
156	4
157	5
158	6
159	7
160	8
161	9
162	10
163	11
164	12
165	13
166	14
167	15
168	16
169	17
170	18
171	19
172	20
173	21
174	22
175	23
176	24
177	25
178	26
179	27
180	28
181	29
182	30
183	31
184	1
185	2
186	3
187	4
188	5
189	6
190	7
191	8
192	9
193	10
194	11
195	12
196	13
197	14
198	15
199	16
200	17
201	18
202	19
203	20
204	21
205	22
206	23
207	24
208	25
209	26
210	27
211	28
212	29
213	30
214	31
215	1
216	2
217	3
218	4
219	5
220	6
221	7
222	8
223	9
224	10
225	11
226	12
227	13
228	14
229	15
230	16
231	17
232	18
233	19
234	20
235	21
236	22
237	23
238	24
239	25
240	26
241	27
242	28
243	29
244	30
245	31
246	1
247	2
248	3
249	4
250	5
251	6
252	7
253	8
254	9
255	10
256	11
257	12
258	13
259	14
260	15
261	16
262	17
263	18
264	19
265	20
266	21
267	22
268	23
269	24
270	25
271	26
272	27
273	28
274	29
275	30
276	31
277	1
278	2
279	3
280	4
281	5
282	6
283	7
284	8
285	9
286	10
287	11
288	12
289	13
290	14
291	15
292	16
293	17
294	18
295	19
296	20
297	21
298	22
299	23
300	24
301	25
302	26
303	27
304	28
305	29
306	30
307	31
308	1
309	2
310	3
311	4
312	5
313	6
314	7
315	8
316	9
317	10
318	11
319	12
320	13
321	14
322	15
323	16
324	17
325	18
326	19
327	20
328	21
329	22
330	23
331	24
332	25
333	26
334	27
335	28
336	29
337	30
338	31
339	1
340	2
341	3
342	4
343	5
344	6
345	7
346	8
347	9
348	10
349	11
350	12
351	13
352	14
353	15
354	16
355	17
356	18
357	19
358	20
359	21
360	22
361	23
362	24
363	25
364	26
365	27
366	28
367	29
368	30
369	31
370	1
371	2
372	3
373	4
374	5
375	6
376	7
377	8
378	9
379	10
380	11
381	12
382	13
383	14
384	15
385	16
386	17
387	18
388	19
389	20
390	21
391	22
392	23
393	24
394	25
395	26
396	27
397	28
398	29
399	30
400	31
401	1
402	2
403	3
404	4
405	5
406	6
407	7
408	8
409	9
410	10
411	11
412	12
413	13
414	14
415	15
416	16
417	17
418	18
419	19
420	20
421	21
422	22
423	23
424	24
425	25
426	26
427	27
428	28
429	29
430	30
431	31
432	1
433	2
434	3
435	4
436	5
437	6
438	7
439	8
440	9
441	10
442	11
443	12
444	13
445	14
446	15
447	16
448	17
449	18
450	19
451	20
452	21
453	22
454	23
455	24
456	25
457	26
458	27
459	28
460	29
461	30
462	31
463	1
464	2
465	3
466	4
467	5
468	6
469	7
470	8
471	9
472	10
473	11
474	12
475	13
476	14
477	15
478	16
479	17
480	18
481	19
482	20
483	21
484	22
485	23
486	24
487	25
488	26
489	27
490	28
491	29
492	30
493	31
494	1
495	2
496	3
497	4
498	5
499	6
500	7
501	8
502	9
503	10
504	11
505	12
506	13
507	14
508	15
509	16
510	17
511	18
512	19
513	20
514	21
515	22
516	23
517	24
518	25
519	26
520	27
521	28
522	29
523	30
524	31
525	1
526	2
527	3
528	4

参考:Q&A

- Q1. 「クォーター(ターム)制(4学期制)」では、授業の実施回数はどう変わりますか？
- A1. 授業の実施は週1回から週2回に変更し、試験を含め8週間(1ターム)で完結させます。
- Q2. 週2回の授業実施はどのような形で行われますか？
- A2. 週2回の授業を実施する方法として、1日に2コマ連続で実施する科目、曜日をペア(火・金等)にして、1日1コマ、週2回で実施する科目があります。
- Q3. いままでどおりのセメスター単位(15週+試験)で行う授業は実施されないのですか？
- A3. 平成28年度の本格導入以降も、教育効果を考慮し、ターム科目に対応することが困難な科目について、いままでどおりセメスター単位で実施される授業もあります。

13

参考:Q&A

- Q4. 1コマあたりの授業時間はどれくらいですか？
- A4. 授業の開始・終了時間や授業時間(90分)はこれまでどおりの実施となります。
- Q5. 期末試験の日程はどうなりますか？
- A5. 1ターム(8週間)で実施する授業科目と1セメスター(16週間)で実施する科目があるため、学年暦(授業スケジュール)に期末試験期間を記載していませんが、原則、16回目の授業で試験を実施することになります。なお、試験実施の有無、試験日程については、各授業担当教員やもみじの試験情報から確認してください。なお、受講者数が多く、学生間の距離を取った指定席を用いた試験を行う場合には、教員が各学生支援室あるいは教養教育窓口と相談し、実施します。
- Q6. 授業料の納付時期はどうなりますか？
- A6. 現行どおり、前期及び後期の区分で授業料を納付することになります。

14

参考:Q&A

- Q7. 学生による授業評価アンケートはセメスター毎ですか？それともターム毎ですか？
- A7. ターム毎に行われます。
- Q8. 教員間の授業参観週間の実施はセメスター毎ですか？それともターム毎ですか？
- A8. ターム毎に行われます。

15

広島大学の教養教育科目(平成28年度)

科目区分	教育目標	要修得単位数										
		総	文	数	法	経	理	医	商	薬	工	生
教養コア科目	教養ゼミ	2										
	平和科目	2										
	パッケージ別科目	6										
共通科目	外国語科目	6+4	6+4	4+6	8+4	8+4	6+4	6+4	8+4	8+0	8+2	8+4
	情報科目	2	2	2	(0)	2	2	2	2	2	2	2
	領域科目	(28)	22	20	8	6	4	6	4	6	8	8
	健康スポーツ科目	2	2	2	(0)	2	2	2	2	2	2	2
基盤科目	自由選択	(28)	(0)	(0)	4	6	21	12	8	14	22	14
	要修得単位数(最多プログラム)	52	46	46	34	44	49	42	40	40	52	48
	要修得単位数(最少プログラム)	—	—	31	—	—	40	40	40	40	48	—

※要修得単位数は多プログラムのものを掲載

平成28年度のクォーター制実施状況(教養教育)

- 全授業数(昼間・夜間) 1,495科目
- ターム制対象授業数 430科目
- ターム制対象外授業数 1065科目(夜間、集中科目、外国語科目、領域科目、外国語領域、スポーツ実習、数学、実験)

表1 ターム制対象授業の移行状況

科目区分	ターム科目	セメスター科目
平和科目	21	
パッケージ別科目	106	
外国語科目		
情報科目	9	8
領域科目	135	46
健康スポーツ科目	12	
基盤科目	47	39
総計(430科目)	337 (78%)	93 (22%)

17

時間割の例(工学部・1年生)

1年 1ターム	月	火	水	木	金
1-2	ベーシック中国語I	情報活用基礎	ベーシック中国語I		
3-4	コミュニケーションIA	線形代数I	スポーツ実習A		
5-6	心理学A		広島大学の歴史	微分積分I	コミュニケーションB
7-8					数学演習I
9-10	プログラミング序説	教養ゼミ	科学技術と人間社会		
1年 2ターム	月	火	水	木	金
1-2	ベーシック中国語I	一般力学I	ベーシック中国語I		
3-4	コミュニケーションIA	線形代数I	スポーツ実習A	現代アートの世界	
5-6	グローバル・パートナーシップ	英語圏の文学と社会		微分積分I	コミュニケーションB
7-8					数学演習I
9-10	プログラミング序説	教養ゼミ	科学技術と人間社会		
1年 3ターム	月	火	水	木	金
1-2	線形代数II	数学演習II	一般力学II	物理学実験法・同実験	
3-4	コミュニケーションIA	応用数学IV			
5-6	応用数学I	文化と自然	シミュレーションと情報システム応用情報	微分積分II	コミュニケーションB
7-8	シミュレーションと情報システム応用情報				スポーツ実習A
9-10				プログラミング演習I	回路理論I
1年 4ターム	月	火	水	木	金
1-2	線形代数II	数学演習II		物理学実験法・同実験	
3-4	コミュニケーションIA	応用数学IV			
5-6	応用数学I		シミュレーションと情報システム応用情報	微分積分II	コミュニケーションB
7-8	シミュレーションと情報システム応用情報				スポーツ実習A
9-10				プログラミング演習I	回路理論I

時間割の例(教育学部・1年生)					
1年 1ターム					
月	火	水	木	金	
1-2 コミュニケーションB	文化人類学	教養ゼミ	教育行政学	コミュニケーションIA	
3-4 現代の消費生活					
5-6 日本国憲法	ベーシックドイツ語I	幼児教育学	ベーシックドイツ語I	情報活用基礎	
7-8		社会教育学	文学・語学の世界		
9-10					
1年 2ターム					
月	火	水	木	金	
1-2 コミュニケーションB	教育と制度	中・高等学校教育実習入門	日本史概説	コミュニケーションIA	
3-4 現代の消費生活					
5-6 暴力の比較宗教学	ベーシックドイツ語II	経済学概説	ベーシックドイツ語II	科学と宗教	
7-8		社会教育学	文学・語学の世界		
9-10					
1年 3ターム					
月	火	水	木	金	
1-2 コミュニケーションB	地域の分析	西洋教育史	比較教育学	コミュニケーションIA	
3-4					
5-6 健康スポーツ科学	ベーシックドイツ語II	教育哲学	ベーシックドイツ語II	睡眠と生活リズム	
7-8			歴史学の世界		
9-10					
1年 4ターム					
月	火	水	木	金	
1-2 コミュニケーションB	地理学概説II	アジア史A	教育方法学	コミュニケーションIA	
3-4					
5-6 職業選択と自己実現	ベーシックドイツ語II	教育社会学	ベーシックドイツ語II	文化人類学B	
7-8			歴史学の世界		
9-10					

クォーター制に対する意見

【メリット】

<授業設計>

- 授業冒頭の前回の復習の部分が減ったことで、むしろ時間が増えた。
- じっくり時間をかけて授業することが可能になった
- 2回休憩を入れることも可能。

<授業改善>

- 授業を見直すきっかけとなった。2コマ連続の授業の場合、授業時間に余裕がもて、学生との双方向による授業やアクティブラーニングを充実させることができた。

<授業準備>

- 従来はセメスターで同時に並行していた授業準備が、開講するタームをずらすことでターム毎に準備できるようになった。

<研究時間の確保>

- 1つのタームに授業を集中させることで、まとまった研究時間を確保することができるようになった。

【デメリット】

- 学会出席や病気による休講のリカバリーが困難
- ターム科目とセメスター科目が混在するため時間割編成が困難

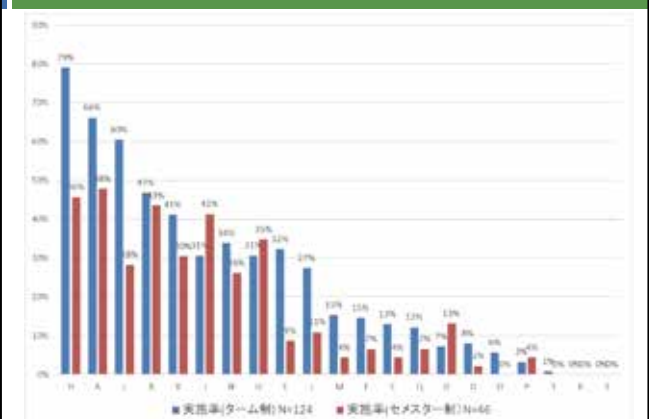
20

教養教育・講義系科目におけるアクティブ・ラーニングを促す工夫 (2016年調査)

調査期間 第1ターム:6月2日(木)~24日(金) 第2ターム:第1セメスター:8月2日(火)~24日(水)
対 象 教養教育科目のうち講義科目の担当教員 (ターム科目 & セメスター科目)
対象科目数243、 回答数171(ターム制124、セメスター制46、集中1)、 回答率70.4%

アンケート項目	実施数	実施率
H 講義の途中で問いを投げかけ、学生に考えさせた	119	69.6%
A 講義の途中で手を挙げさせた	104	60.8%
J 講義中または終了時にコメント用紙に質問や意見・感想などを書かせた	88	51.5%
B 講義の途中で学生を指名して意見や質問を述べさせた	78	45.6%
K 講義で学んだことや議論したことなどをまとめて小レポートを書かせた	65	38.0%
I 講義の途中や最後に確認テストを行った	57	33.3%
N 小じりやBb等にて講義の資料や参考文献URLを掲載し、講義前後に予習・復習を行うよう指示した	54	31.6%
U 上記以外で、独自に工夫されている点があればご記入ください。	54	31.6%
E 教員が提示したテーマについて、学生同士でディスカッションした	44	25.7%
L 講義終了時にその回の学習内容を振り返りかえらせたり、ノートにまとめさせたりした	39	22.8%
F 学生が取り組んだ課題やレポートについて、学生同士でコメントがあった	21	12.3%
M 学んだ内容から仮説を立てさせたり、学習内容を身近な問題に適用させたりした	21	12.3%
G 調べた内容を学生が発表した	18	10.5%
Q 教室を出て現地で観察させた	18	10.5%
講義の最初に復習テストを行った	15	8.8%
D あるテーマについて異なる立場に分かれて、交互に立論、質疑応答、反論などを行った	11	6.4%
O 講義時間外に次の回の講義の映像を見るよう指示し、講義中は学生に発表させたり、学生同士でディスカッションさせたりした(=反転授業)	7	4.1%
P 役割を演じることを通じて学ばせた	6	3.5%
T 上記にあてはまらないのはいい	2	1.2%
R 社会貢献活動などを通して学ばせた	0	0.0%
S 企業等において実習・研修的な就業体験を通して学ばせた	0	0.0%

教養教育・講義系科目におけるアクティブ・ラーニングを促す工夫 (2016年調査)(開講区分別)



教養教育・講義系科目におけるアクティブ・ラーニングを促す工夫 (2016年調査)(ターム科目、自由記述抜粋)

- クリッカーを利用して確認テストを行った (パッケージ別科目、152名)【復習テスト】
- 2コマ連続で講義を行っている。1コマ目の最初に前回の復習を確認する小テストを行う。さらに他の学生のレポートを添削、評価させる。レポートは次回に返却する。学生同士で添削、評価し合うことにより、刺激になっているようである。(基盤科目、48名)【復習テスト+相互評価】
- 毎回の授業後に寄せられた質問に対して匿名での回答集を作成し、全員に配布した。確認テストの回答を学生同士で相互採点させた。(基盤科目48名)【コメントシート+復習テスト+相互評価】
- 定められたテーマで書かせたレポートを5名程度のグループ内で互いに批評した。【予習+グループ学習】

23

- 事前に問題を4問出題しておき(Bb9に載せておく)、予習して来ってもらう。授業時間には、4人程度のグループをつくり、グループAは問1、グループBは問2のように、各グループは、4問中の1問だけについて予習してきた内容を確認しあい、疑問点を共有し、解決する。全員が自分の担当の問題については詳しく解説できるように準備を整える。その後、各グループから一人ずつ出て、問1から問4のすべての問いの担当者が集まるように新たな4人グループを作る (基盤科目、48名)【予習+グループ学習】
- 1グループ2~3名になるよう、右肩に座席番号を記入した課題シート(A4紙1枚)を配布している。授業冒頭の3分間、グループ内で自己紹介を行わせ、同グループの学生の氏名を課題シートに書かせている。その後、講義(30分程度)→グループ討議+課題シートへの記入(10分程度)を2回繰り返している。(パッケージ別科目、126名)【グループ学習+まとめ】

24

- 授業時間の初めに、毎回、その授業時間(コマ)と次の授業時間(コマ)の要点を問う数個の質問を書いた「本日の課題」を渡している。提出は不要だが、授業終了時に、背景も含めてその質問に答えられるように真剣に授業を受けるように求めると共に、残った次回学ぶ課題について予習するように指示している。(パッケージ別科目、124名)【導入時の工夫】
- 基本のテーマを与え10～15分くらいで発表させ、毎回発表者を変えていき全員で議論する。(基盤科目、78名)【発表＋全体討論】
- ロールプレイ型のディスカッションを実施した(時間の経過とともに、追加情報を提供し、状況を変化させ、ディスカッションを刺激した。)(平和科目、20名)【ロールプレイ】

25

今後の改善に向けて

- クォーター制の推進
- クォーター制の充実・改善に向けた現状調査(実施中)
 - ターム科目の特徴(2コマ連続等)を活かし工夫した点
 - ターム科目への移行が困難である場合、支障となっている点
- クォーター制の充実・改善に向けたFDの充実
- その他

26

6. 第 11 回東北大学全学教育 FD アンケート結果

第 1 1 回東北大学全学教育 F D アンケート

今後の全学教育 F D を企画するうえで参考とさせていただきたく、アンケートにご協力
よろしくお願い致します。

回 答 者： 東北大学教員・非常勤講師・事務職員・その他 （いずれかを○で囲んでください）

* 教員の方は、全学教育で担当されている科目名を記入してください。

科目名： _____

1 全学教育 F D の趣旨を理解できましたか。

(1) できた (2) できなかった (3) どちらともいえない

※お答えになった理由や感想をお書き下さい。

--

2 学事暦の柔軟化、クォーター制について、イメージやヒントは得られましたか。

(1) 得られた (2) 得られなかった (3) どちらともいえない

※お答えになった理由や感想をお書き下さい。

--

3 今回の全学教育 F D の内容・運営等についてはいかがでしたか。

(1) よかった (2) よくなかった (3) どちらともいえない

※お答えになった理由や、今後取り上げて欲しい課題について具体的にお書き下さい。

--

4 その他、全学教育および大学教育全般について、ご意見があればお書きください。

--

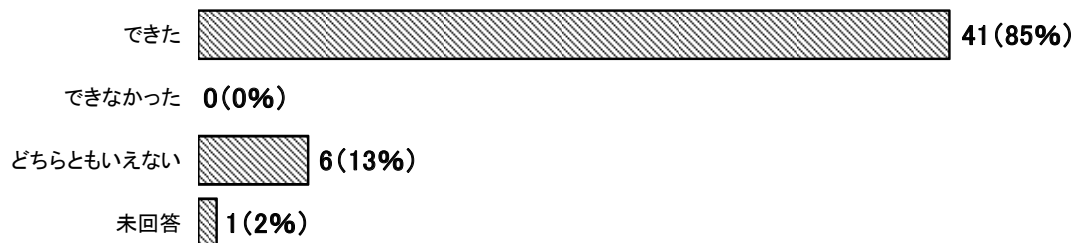
ご協力ありがとうございました。

FDアンケート結果

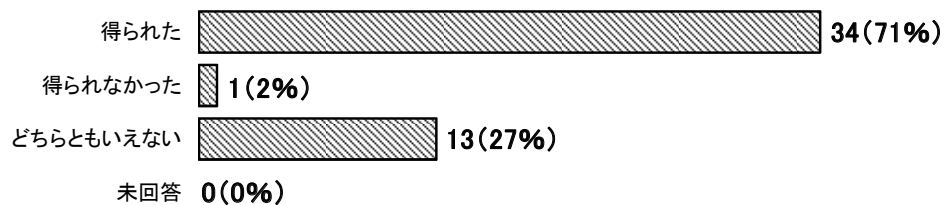
回答者数：48名

内	東北大学教員	30名
	非常勤講師	5名
	その他	5名
	不明	8名

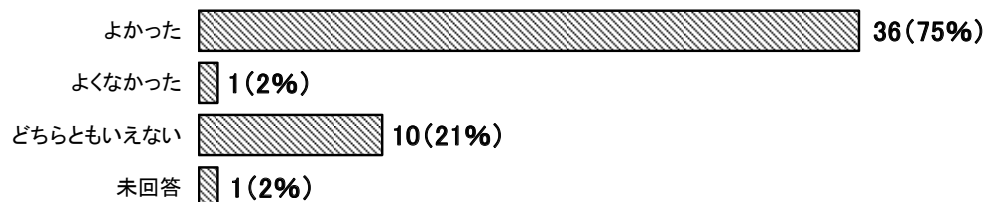
1. 全学教育FDの趣旨を理解できましたか。



2. 学事暦の柔軟化、クォーター制について、イメージやヒントは得られましたか。



3. 今回の全学教育FDの内容・運営等についてはいかがでしたか。



★アンケートの主な自由記述

1. 全学教育 FD の趣旨を理解できましたか。

(1) できた

- 秋入学、クォーター制移行、学事暦の柔軟化が茶番だと理解した。あまりエネルギーをかけるべき事柄ではなく、この多忙な昨今の大学では、優先すべきことが他にある。
- 都合により途中参加となったが、配布資料を拝見するに、クォーター制の導入に際しての不安解消に向けて、丁寧な説明を行っていることがわかった。
- 東北大学の教育方針を直にかつ総括的に聞きする機会として、（非常勤にとって）非常に有意義でした。
- 非常勤教員を対象としたFDは、ここでしか受けられない（他の勤務大学ではこうした研修はない）のでありがたいです。
- 英語部会の説明会で大きくは聞いていたので、さらに具体的に参考になった。質問により、補講期間がないこともわかり、より役にたった。
- 留学に関してを中心にするのか、学習効果を考えるのか、もう少しポイントが明示されるとわかりやすくなったと思うが、いまだ試行段階であるとすれば仕方のないところ。
- 本部の考えを教員に説明する場となっていた。考え方や、目標の共有の場になっている。

(2) どちらともいえない

- 具体的な進み方（授業の例を挙げる）が紹介されることを期待していたから、もう少し具体的な面について知りたいです。
- 再履修の問題は将来大きくなるのかもしれない。

未回答

- 大学の新しい動き（教育改革）の紹介についてよかったと思います。

2. 学事暦の柔軟化、クォーター制について、イメージやヒントは得られましたか。

(1) 得られた

- 各国の学事暦、日本の特殊性について確認できた。6～8月（2クォーター）の使い方がポイントであることが認識できた。
- クォーター制自体のイメージは授業を提供する側としてはできたものの、学生のほうがきちんとイメージできるのか、たとえば受講登録がきちんとできるのか（どのようにイメージさせるのか）が気になります。
- 変える労力に比べて、改善効果が少ないだろうと予測されていると理解した。OECDはじめほとんど誰も必要性を感じていない。やるにしても方向が明白なのだ。また、「教育しない期間が増える」はウソ。東北大学は大学院大学なのだから全学などの講義がなければ教育しなくてもよいとは全くなならない。
- 中国語はほぼセメスター制の通りに実施していきませんが、全体の科目の減少によって、授業外の学習時間の確保が期待されると思います。
- 目的は良くわかりましたが、セメスター科目とクォーター制が混在するため、どうしてもわかりづらい部分があると思います。
- 仕組みは理解できた。
- クォーター制について、具体的に理解することができたと思います。
- 工学部の事例が興味深く、長期留学のために有利、という点がやはり一番の利点かと思った。同時に、学生の **motivation** の維持ということも効果があると感じる。
- 学習効果の向上については理解できるが、学事暦が本当に対応できるか疑問が残るところ。セメスターとクォーターとの関係はどうなるのか。Q1とQ2を上手に運用できるかどうかですね。
- セメスターとクォーターを混在させるということで可能性が高まる。

(2) 得られなかった

- クォーター制についての積極的な理由を知ることができなかった。

(3) どちらともいえない

- 広島大学さんのクォーター制のように2コマ連続での授業開講ができれば有意義だと思いましたが、本学の場合はそうではないので、あまり参考にはならないのではと感じました。
- ・週1クォーターについて、週1回2コマで2単位分なのか？週1回1コマで1単位分なのか？
 - ・成績付けが学期単位であることのメリット、デメリットがまだつかめない（現時点でつかみようがないか）。
- 初修外国語の場合、クォーター制をどのようにうまくカリキュラムに反映させるか、

という点について、依然試行錯誤の段階であり、今回のFDではこれに直接的なヒントを与えてくれるものは少なかった。最後の質疑応答でようやく、この話題に触れられたが、やはり講演の中でしっかり取り上げてもらいたかった。

- メリット、デメリットがあり、今のところどの選択が良いのか判断できなかった。
- 学事暦を柔軟化するというイメージは湧かなかった。
- 授業設計が非常に難しいと感じました。授業回数を減らすのであれば、1コマあたりの時間を延長（東大のように）すべきと考えます。一方で、授業回数の縮減は学生個々とのコミュニケーション機会が減ることになり、マイナス面も否定できないと思います。私は1年生を担当してきましたが、15週の間に学生は変わります。その意味でも授業回数・期間を一定程度確保することには意義があると考えます。
- ギャップイヤーの問題という視点からは理解できたが、実施の際の具体的な工夫例についてはクォーター制でなくてもできる例が多かった気がします。また、クォーター制についてはシラバスを書く前に教えていただきたかったです。
- クォーター制とセメスター制を混在させるとうまく運用ができると感じた。

3. 今回の全学教育FDの内容・運営等についてはいかがでしたか。

(1) よかった

- 工学部の取り組み、他大学（広島大学）のターム制を具体的に聞くことができ、大変有意義であった。
- 移行業務を直接担当されている先生方の、意欲や心持ちを正直に把握できる良い機会になった。今回テーマとなった事柄で、学生の意欲向上に直結していると思っている先生はほぼ居ない。
- 大学の教育改革（新しい動き）についてより深く理解ができると思われます。
- 広島大学の先行事例を知ることができた。
- 時期的に必要なだと思う。
- 学力向上、成績評価もさることながら、学生の行動傾向や気質など（感覚的なものも含めて）、情報交換する機会を設けてはいかがでしょうか。教員と学生の年齢差は年々開いていくわけで、「今どきの若者」を理解し、コミュニケーションを図るには相当の努力を要します。また、学生の経済的状況等も知りたい点です。アルバイトに相当の時間を割いている者が少なくないと今年度は感じました。気になります。
- クォーター制について、多面的に取り上げていただいたので、比較的深い理解が得られました。
- 他国、他大学との比較、それによるクォーター制の導入の背景と導入などが、順を追って大変わかりやすくスムーズに進められていったと思う。広島大学のターム制、セメスター制の事例も、非常勤の立場として参考になった。（但し、現実的に2コマ続けて・・・というのも準備等を含め、教員、学生ともににとってどうなのか。検証結果をききたいところと思う。）
- 広島大の具体例があり、メリットの意見は参考になった。

(2) よくなかった

- クォーター制の核心にせまっていない。

(3) どちらともいえない

- 全学教育としては「よかった」と評価できるが、初修外国語担当者にとってヒントとなる部分が少なかったのは残念。来年度本学でクォーター制を本格的に実施すると、各教員の間でも自身の経験に基く様々な意見が出てくると思うので、来年度 or 再来年度にも改めてクォーター制をテーマとしたFDを開催して欲しい。
- 時間が長い。
- もう少し蓄積のあるクォータ制を導入している大学の事例もききたかった。

未回答

- 頂いたプリントアウト資料の中に字が小さすぎて読めないものがありました（スクリーンでも同様に文字が小さく、結局その資料は読めませんでした）。以前F Dで行っていた模擬授業を復活させて下さい。参考になりますので。

4. その他、全学教育および大学教育全般について、ご意見があればお書きください。

- クォーター化にしてもどうせ進めるのだろうけれど（文科省の圧力もある）、事務的にどんどん煩雑になるだけに思えてならない。実際日程的に苦しくなり理学部で伝統的に行っていた泊りこみ新生オリエンテーションも行えなくなった。伝統の破壊という面があることを自覚してほしい。
- ビデオ録画システムやネットワーク方面の拡充に多額の資金を投じず教員数の増加、T Aの充実など人的強化を進め、続いてクラスの少人数化を進めねば学力は向上しない。T Aの経費を削減してわずかな金を浮かそうとする今春の改革は間違っている。
- 医学部・医学科教員です。T G L対象基礎ゼミを運営する上で、他学部学生のカリキュラム内での位置づけに、まだ迷いがあります。
- 初修外国語は非常勤講師が多く、今回のような重要な意味を持つF Dであっても都合が付かず出席できない者が多い。今後学務情報システム等を活用してF D配布資料や講演を撮影した動画などを閲覧できるようにすると、F Dの潜在的効果を発揮できるのではないだろうか。
- クォーター制についてはメリットのみならず、デメリットも含めて長期的かつ教育的視点で検討していただければと思います。
- 試行錯誤の後の検討をどのようにすすめていくのか、大事なところだと思いました。
- 来年度から初めて担当するので、授業、実習のやり方など、いろいろ勉強したいと思います。
- 別の大学で非常勤講師を務めていますが、そこでは数年前からG P A制度を導入しています。東北大学におけるG P A導入の意義等を冊子、H Pで開示していただければ幸いです。
- 新しい取り組みについて、こうした場をもち理解を共有できたのは嬉しい。とくに語学は、広島大の例では、タームではなくセメスターのまま残っているようで、やはりセメスターを排除せず・・・ということはあるのかな・・・とも思った。大変でもあり不安でもあるが、“挑戦”も必要と思い、今後も全学教育のため、ベストを尽くしていきたいとおもう。
- 大学の高校化が益々進んでいる。
- クォーター制実施後の問題点と教育効果など、今回のテーマのフォロー企画を必ずお願いします。
- クォータ制のメリットについての質問：4 5時間1 単位の原則である限り、クォーター制にしたからとしても、学生の学習時間は変化なしと思われる。なぜクォーター制で学生のゆとりがうまれるのか不明。

編集：東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授 葛生政則

IEHE Report 72*

第 11 回東北大学全学教育 F D ―報告書―

2017 年（平成 29 年）9 月 発行

東 北 大 学 学 務 審 議 会
東北大学高度教養教育・学生支援機構

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41 TEL 022-795-7551

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/>

*No.55 以前は CAHE TOHOKU Report として刊行